

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島市立福島第三中学校剣道部	顧問・外部指導者氏名	笠間祐平 菅野秀子 安藤誠基	電話/FAX	024-534-3171	Email	fukushima3-j@fukushima-city.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 学年・学級の所属を離れ、共通の趣味や関心を持つ生徒が、部活動という集団を経験することにより、よりよい人格を形成する。 (2) 集団の一員としての役割を自覚させ、他と協調し、友情を深めて楽しく豊かな共同生活を築く態度を育て、集団の向上発展に尽くす能力を養う。		各部の活動目標 (1) 剣道部の活動を通して、礼儀、礼節や他に対するいたわりの気持ちを大切にして活動ができるようにする。 (2) 稽古に真剣に取り組み、個々の目標を達成するため強い意志を持って努力していくことで互いに高め合うことができる集団になれるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 道場や外部の団体での練習に参加する生徒は、部活動を休止して下校し、学習を行ってから活動に参加できるようにしている。 (2) 定期テストの3日前からは学習時間の確保のため部活動を休止し文武両道で努力していけるよう配慮している。		
学校全体の指導方針 (1) 全員参加を基本とし、各部とも活動目標や指導の方針及び年間指導計画を作成し、目標の達成のため見直しを持って活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密にし、発達段階に応じた指導を行うことで知、徳、体のバランスのとれた成長が図れるよう指導する。		各部の指導方針 (1) 武道の基本である言葉遣いやあいさつなどの礼法を正しく理解し、精神や心を鍛える。 (2) 正しい基本を理解し、繰り返し練習を行うことで試合を行うための土台作りを行う。 (3) 日々の練習を大切にすると共に、技の習得のため自ら学ぶ姿勢を大切に活動を行う。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 疲労が蓄積しすぎないように、週に一度は休養日を設け、学習と部活動との両立を計ることができるようになっている。 (2) 体調不良やけがなどの症状がある生徒に対しては無理をさせず状況の改善に努めさせる。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 施設や用具の点検を定期的に行い、顧問教師の指導監督のもとで活動させる。 (2) けがや事故のないように、準備、整理体操を十分に行わせると共に、運動開始前と終了後の心身の状態の把握に努める。 (3) AEDの使用法や救命救急法を十分に理解し、緊急時の適切な応急処置ができるようにする。		各部の指導内容 (1) けがや事故に繋がらないよう運動前のストレッチや準備運動、素振りをしっかりと行う。 (2) 基本技の練習を繰り返し行い、正しく正確に相手の部位を打突する技術を確認する。 (3) 相手と攻防する対人的な練習を通して基本技の練習の成果を確認する。 (4) 試合稽古を通して、実際の試合の感覚を養う。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合後に指導者や生徒が感じた成果や課題について語り合う時間を確保し、指導に生かせるようにしている。 (2) 生徒観察や意識的な相談を行い、部内における指導上の問題の早期発見と対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度初めに、活動目標などについて説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績などについて説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 初めて剣道を行う1年生は、基礎体力の向上と基本技の習得を目標とし、体幹や下半身を鍛える運動を取り入れながら、礼法や打突の技術を段階的に指導していく。 (2) 2年生は他校との練習試合や地区の錬成会、大会に目標を持って参加し、その反省をふまえて練習を粘り強く行っていくことで、打突の技術や精神力を高めていく。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者に、学校での活動状況や試合の様子を事前に報告し、共通理解を図って指導にあたれるようにする。 (2) 外部指導者から、練習内容や練習方法についてのアドバイスを顧問がいただき、日常の練習に生かせるようにする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定							中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式			
各種大会の予定						支部新人大会 支部秋季錬成大会 連盟主催大会	県北新人大会	新人剣道大会				
練習試合・遠征等						週末に練習試合を 2回設定する	週末に練習試合を 1回程度設定	週末に練習試合を 1回程度設定				
シーズン区分)					充実期	充実期	試合期	試合期	準備期			
活動内容・ねらい					・1年生は礼法や打突の方法について段階的に練習し、新人大会に備えては基本的な技を生かして、戦えるようにする。	・大会や練習試合への参加を通して確認したチームや個人の課題の解決に向けて練習を行う。	・大会や練習試合への参加を通して気づいたチームや個人の課題解決に向けて練習を行う。	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニングを行う	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニングを行う			

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島市立西信中学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	遠藤 隆・安西 一彦	電話/FAX	024-493-1049/024-593-4756	Email	seishinj@ht-net21.ne.jp
学校全体に関わって	各部の計画		部員の現状・配慮事項等				
学校全体の活動目標 (1) 自主的活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、創造力、実践力を育成する (2) 集団の一員としての役割を持たせ、自己存在感を味わさせる。	各部の活動目標 (1) 目標に向かって、部員一人ひとりが自ら考え、判断し、仲間と協力しながら最後までやり抜く強い意志と態度を育成する。 (2) 個人の長所を生かした指導を行い、チームにおける自己存在感を持たせる。		部員のニーズや要望・意見 (1) 基礎を確実に身につけ、技能を向上させ、大会で勝ちたいと考えている生徒が多い。 (2) 週末も休まずに練習したいと考えている生徒が多い。				
学校全体の指導方針 (1) 技術の習得と同時に、集団活動における望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 学年差・性差・技術差等の個人差や、中学生としての生活バランスを確保した活動の量と質を考慮して指導にあたる。	各部の指導方針 (1) 仲間のことを考えてプレーができ、お互いに切磋琢磨できる集団を形成するため、ミーティングなどで互いの考えを共有する時間を持ち、よりよい人間関係を構築させる。 (2) どのポジションでもできる選手になるように、技術の向上を図る。		部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1日の休養日を設定する。週末に連続して試合があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 食生活などの生活リズムを整え、疲労が蓄積しないようにする。				
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 部長会を通し、運動前の準備運動を念入りに行わせる。 (3) 活動場所の整理整頓を意識させ、安全に努める。	各部の指導内容 (1) 段階に応じた指導を行う。準備期には基礎を中心に個人技能と体力の向上を目指す。 (2) 練習や練習試合において、常に課題意識を持たせて取り組ませる。		部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長・副部長と練習内容を確認し、指導や支援の改善に生かす。 (2) 定期的なミーティング開催と、意図的なチャンス相談を行い、練習や試合、部内の問題点などについて早期把握と早期対応に努める。				
保護者等への説明機会 (1) 保護者会総会において、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。	各部の指導方法 (1) 顧問の指示のもとに練習を行い、休日は外部指導者と相談しながら練習を進める。 (2) 体育館の練習と外での練習を効率よく行い、適切な運動量を確保しながら技能面と体力面のレベルアップを図る。		指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者からも練習の内容や練習方法等の情報を入手し、日々の練習に取り入れる。				

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 校外学習	定期テスト①	定期テスト②	ドリフアップ事業 終業式	始業式		定期テスト③ 学校祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	球技大会 卒業式 修了式
各種大会の予定	協会主催大会		支部大会 県北大会	県大会		支部新人大会	協会主催大会		協会主催大会		協会主催大会+	
練習試合・遠征等	週末に練習試合を設定	連休中・週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定		週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定	週末に練習試合を設定	週末に練習試合を設定	大会期間を除き、週末に練習試合を設定		週末に練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・実践と課題解決練習 ・筋力・持久力の強化	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・個人技能の強化	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・個人技能の強化。基本的なレシーブや、サーブの習得 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習	・大会に向けてチームとしての連携練習 ・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・個人技能習得に向けたトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・個人技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング	・練習試合の実践と課題確認、解決練習 ・チームとしての連携練習 ・筋力・全身持久力を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島市立西信中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	二階堂 千春・佐々木 一雄	電話/FAX	024-493-1049/024-593-4756	Email	seishinj@ht-net21.ne.jp
学校全体に関わって	各部の計画			部員の現状・配慮事項等			
学校全体の活動目標 (1) 自主的活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、創造力、実践力を育成する (2) 集団の一員としての役割を持たせ、自己存在感を味わわせる。	各部の活動目標 (1) 目標に向かって、部員一人ひとりが自ら考え、判断し、仲間と協力しながら最後までやり抜く強い意志と態度を育成する。 (2) 個人の長所を生かした指導を行い、チームにおける自己存在感を持たせる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 基礎を確実に身につけ、技能を向上させ、大会で勝ちたいと考えている生徒が多い。 (2) 週末も休まずに練習したいと考えている生徒が多い。			
学校全体の指導方針 (1) 技術の習得と同時に、集団活動における望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 学年差・性差・技術差等の個人差や、中学生としての生活バランスを確保した活動の量と質を考慮して指導にあたる。	各部の指導方針 (1) 仲間のことを考えてプレーができ、互いに切磋琢磨できる集団を形成するため、ミーティングなどで互いの考えを共有する時間を持ち、よりよい人間関係を構築させる。 (2) シングルスとダブルスの両方ができる選手になるように、技術の向上を図る。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1日の休養日を設定する。週末に連続して試合があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 食生活などの生活リズムを整え、疲労が蓄積しないようにする。			
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 部長会を通し、運動前の準備運動を念入りに行わせる。 (3) 活動場所の整理整頓を意識させ、安全に努める。	各部の指導内容 (1) 段階に応じた指導を行う。準備期には基礎を中心に個人技能と体力の向上を目指す。 (2) 練習や練習試合において、常に課題意識を持たせて取り組ませる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長・副部長と練習内容を確認し、指導や支援の改善に生かす。 (2) 定期的なミーティング開催と、意図的なチャンス相談を行い、練習や試合、部内の問題点などについて早期把握と早期対応に努める。			
保護者等への説明機会 (1) 保護者会総会において、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。	各部の指導方法 (1) 顧問の指示のもとに練習を行い、休日は外部指導者と相談しながら練習を進める。 (2) 体育館の練習と外での練習を効率よく行い、適切な運動量を確保しながら技能面と体力面のレベルアップを図る。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者からも練習の内容や練習方法等の情報を入手し、日々の練習に取り入れる。			

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 校外学習	定期テスト①	定期テスト②	ドリームアップ 卒業 終業式	始業式		定期テスト③ 学校祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	球技大会 卒業式 修了式
各種大会の予定	協会主催大会	協会主催大会	支部大会 県北大会	県大会	協会主催大会	支部新人大会				協会主催大会	西地区卓球大会	
練習試合・遠征等	週末に練習試合を 設定	連休中・週末に練習 試合を設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定		週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定	週末に練習試合を 設定	週末に練習試合を 設定	大会期間を除き、 週末に練習試合を 設定		週末に練習試合を 設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・実践と課題解決 練習 ・筋力・持久力の 強化	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・個人技能の強化	・大会に向けてチ ームとしての連 携練習 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・個人技能の強化。 基本的なレシー ブや、サーブの 習得 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習	・大会に向けてチ ームとして連携 練習。 ・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習。 ・個人技能習得に 向けたトレーニ ング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・個人技能の習得 に向けたトレー ニング ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング	・練習試合の実践 と課題確認、解 決練習 ・チームとしての 連携練習 ・筋力・全身持久 力を高めるトレ ーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	川俣町立川俣中学校・フェンシング部	顧問・外部指導者氏名	野田典彦 秦 秀行 ・ 今野 勝	電話/FAX	024-566-4111	Email	hata-hideyuki-g@town.kawamata.lg.jp
学校全体にかかわって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 揺れ動く青年前期にあたる中学生の生活に目標を持たせ、生徒一人一人の能力や適性の伸長を図るとともに有意義な中学校生活を送らせる。</p> <p>(2) 共通の目標達成のための学年・学級の枠を超えた集団生活を通して自己の役割を自覚させ、生徒の自主性や望ましい社会性を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) フェンシング部活動の練習や大会へ参加することを通して、フェンシングの技能の向上を図る。また、体力や忍耐力といった心身の成長を図る。</p> <p>(2) 同学年および上級生、下級生のつながりを通して人間関係の作り方、つきあい方、言葉遣い、気配りの仕方などを学ばせる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 小学校のスポ少から継続してフェンシングの練習に励み、東北、全国規模の大会に出場経験のある生徒と中学校入学時に関心を持って入部した生徒が混在している。</p> <p>(2) フェンシングは用具、遠征等に費用がかさむため、支援してほしいとの要望がある。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒指導の一環として、生徒は可能な限りいずれかの部に所属させ、部活動の計画により教育的な配慮をしながら指導する。</p> <p>(2) 各部の顧問は、年度当初に学校長より任命される。全職員が全生徒を指導するという意識のもと生徒に接するように努める。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校生活を第一とし、学業にしっかり取り組み、規律正しい日常生活を送ることが部活動参加の前提条件とする。</p> <p>(2) 3年間継続してフェンシング部の練習に積極的に参加し、技能向上に努めさせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内服務倫理委員会において体罰・いじめ・セクハラ等防止のための研修会を定期的に行う。また、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 練習日程は、月ごとに外部指導者と打ち合わせをして計画を立てる。</p> <p>(2) 初心者(1年生)、経験者(2, 3年)それぞれにあわせて練習内容を考えて指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者は体力作りから始まり、ルールや基本用語の習得、基本動作の確認など ・経験者は対戦を想定したレッスン、実践練習など 			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問、外部指導者が連携をとり、顧問は基本的な体力作りの指導、外部指導者は実践的な技能の指導を中心とするなど分担して指導していく。</p> <p>(2) 川俣高校フェンシング部と連携し、高校生にも練習を指導してもらい機会を持つ。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	定期テスト①	定期テスト②	終業式	始業式		定期テスト③ 文化祭	定期テスト④	終業式	始業式	定期テスト⑤	卒業式・修了式
各種大会の予定		東日本大会・駒沢 福島県大会		県総体 全国大会・駒沢	東北総体・青森	川俣町大会				JOC大会・駒沢		東北大会・岩手
練習試合・遠征等	週末に川俣高校との合同練習会を設定	東日本大会のため 東京へ遠征		全国大会のため 東京へ遠征	東北総体・合同練習 に参加、協力	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	週末に川俣高校との合同練習会を設定	JOC大会のため 東京へ遠征	週末に川俣高校との合同練習会を設定	東北大会のため 遠征
シーズン区分)	準備期 充実期	試合期	準備期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・新入生は体力作り、ルール等の習得 ・大会へ向けて実践を想定したトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・各自の課題に応じた技能向上のためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	川俣町立山木屋中学校スケート部	顧問・外部指導者氏名	加藤芳史 鹿目秀樹 (外) 佐藤光正	電話/FAX	TEL024-538-1960/FAX538-1961	Email	yamakiya-chu@town.kawamata.lg.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して技能の向上及び健全な身体と精神の育成を図り、人間性豊かな人格の形成を目指す。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 県中学校スケート大会での上位入賞、及び東北大会、全国大会への出場を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) スケートの技術を高め、大会での上位入賞や上位大会への出場を果たしたいという希望を持っている。</p> <p>(2) 専門的な指導を受ける機会があればそれを生かし、スケートの技能を向上させたいと思っている。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 教育活動の一環として、充実した活動ができるようにする。</p> <p>(2) 部活動に参加する生徒は、保護者の承諾書を担任を通して顧問に提出し、校長の許可を受ける。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 特設部であるため、常設部の練習とのバランス等を考慮し、生徒の負担過重とならないように配慮する。</p> <p>(2) 限られた活動時間内で効果的な練習ができるよう、練習内容を工夫する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 部活動の実施は原則として平日及び土曜日とし、日曜日を休養日にあてる。長期休業中における部活動は、生徒の健康管理・学習等を考慮して顧問が決定し、学校長に届け出て実施する。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 活動の場所の安全確認、用具の使用前点検、使用後の後始末をきちんと行う。</p> <p>(2) 会議等で顧問教師が部活動指導にあたるできない場合は、活動を中止する。その他打合せ等で顧問教師がつかない場合は、代理の教師が指導にあたる。</p> <p>(3) 複数の教師を顧問にあて、指導方針等の共通理解を図り部活動指導にあたる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) スピードスケートに必要な基礎的体力の向上</p> <p>(2) スピードスケートの基礎的技術の習得と向上</p> <p>(3) 氷上での滑走技術(スタート、コーナリング、中間滑走、フィニッシュ等)の向上</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) スケート靴等の用具の準備やメンテナンス、大会情報の提供など、部員生徒への情報提供や相談等を随時行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度はじめに部活動保護者会を行い、顧問から活動目標について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 陸上練習 ・基本の姿勢や動作の確認と基礎的体力の向上について外部指導者との連携を図り指導を進める。</p> <p>(2) 氷上練習 ・滑走技術について、外部指導者からの専門的な指導を受けながら指導を進める。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 活動計画、練習方法について、年度はじめに顧問教師と外部指導者の打合せを行う。</p> <p>(2) シーズン中の練習では、その都度外部指導者との連携を図り詳細な練習計画を立てて指導にあたる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 部活動紹介 新入生入部	家庭訪問 中間テスト	期末テスト	土曜授業参観 親子親善球技大会 1学期終業式	2学期始業式 2年生職場体験	高校説明会 生徒会役員選挙	中間テスト 文化祭	期末テスト 定期教育相談 授業参観	2学期終業式	3学期始業式	2年生立志式 授業参観 学年末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定		中体連陸上大会	中体連総合大会	県中体連総合大会		中体連駅伝大会 中体連新人大会			中体連スケート大会(県・東北)	全国中学校スケート大会		
練習試合・遠征等				陸上練習	陸上練習	陸上練習	陸上練習	スケート氷上練習	スケート氷上練習	スケートクラブ合同練習	連盟主催大会・記録会	
シーズン区分)	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	充実期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期
活動内容・ねらい				○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート) ○インラインスケートを使用し氷上練習につなぐ。	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート) ○インラインスケートを使用し氷上練習につなぐ。	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート)	○陸上練習 ・基礎的体力向上 ・基本動作の確認と習得 (含インラインスケート)	○氷上練習 ・スケート滑走技術の確認と習得、向上を図る。	○大会出場、上位大会に向けての氷上練習。 ・上位大会参加に向けた課題の克服。	○町スケートクラブとの合同練習。 ・スケートの技術の向上	○町スケートクラブとの合同練習。 ○連盟主催大会、記録会への参加。 ・大会等への参加を通して記録の向上を図る。	

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	伊達市立桃陵中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：天野美咲 外部指導者：荒井信人	電話/FAX	Tel 024-576-6353 Fax 024-576-6354	Email	school@toryo-j.fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 生徒一人ひとりの自主性・社会性を育てる。 (2) 生徒各自の能力・特性を十分に発揮させるとともに、個性の伸長を図る。 (3) 楽しく規則正しい学校を築くための望ましい人間関係を育てる。		各部の活動目標 (1) 剣の理法の修練を通して、自分の肉体と精神を練磨することにより、健全な青年へと成長するような人間形成を目標とする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 中体連県大会の出場を目標として、各種大会で上位入賞を目指して各自が技能の向上に努めている。 (2) 昇段審査会に合格して、有段者の資格を取得したいと考えている生徒がほとんどである。		
学校全体の指導方針 (1) 部活動は、全生徒の参加を原則とする。ただし、病弱で活動できないとか特殊な習い事で参加できない場合等は、この限りでない。 (2) 生徒の実態を把握し、全教師の協力により個々の生徒の能力を十分に生かせるように指導の方法を工夫する。 (3) 教師の指導・助言をもとに、生徒が自主的に活動し、運営できるようにさせる。 (4) 生徒の主体性を重視し、活動の成果を発表しあい、活動の在り方と意義を理解させる。		各部の指導方針 (1) 剣道を正しく真剣に学び、心身を鎮磨して旺盛なる気力を養う。 (2) 剣道の特性を通じて礼節を尊び、信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努める。 (3) 国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 毎週月・水曜日は、地区のスポーツ少年団への参加のため、部活動における活動時間を考慮する。 (3) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 生徒の事故防止に関する意識の高揚に努めるとともに、定期的に道具の点検に努める。 (2) 不慮の事故に対しては、応急処置の方法を明確にして対処できるよう配慮する。また、連絡体制の整備をしっかりと構築しておく。 (3) 保護者会等と連携を図りながら、相談と適切な解決策を講じることのできる支援態勢を整える。		各部の指導内容 (1) 剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。 (2) 相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。 (3) ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 顧問から部活動保護者会長へ連絡を取りながら、保護者会員に対して部活動連絡網の活用や、大会引率選手輸送の配車協力の際に説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について保護者会を実施して説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 限られた時間内で集中して気剣体の一致を目指した正しい打突を実践できるよう、個々の能力に応じて基本に忠実に練習を行わせる。 (2) 部長を中心として部員一丸となり、主体的な練習を行えるような人間関係の醸成に努めさせる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 高段者である外部指導者から、科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 調査等の予定	入学式・1学期始 業式 部活動紹介 部活動編成	中間テスト	中体連支部大会 中体連県北大会 期末テスト	1学期終業式 中体連県大会	2学期始業式	支部中体連新人戦 大会	文化祭	期末テスト	2学期終業式	3学期始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定			伊達支部大会 県北地区大会	県大会		支部新人大会	地区新人大会	県新人大会 昇段審査会				
練習試合・遠征等	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	夏季休業、不定期 実施の各種大会・ 練成会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加	不定期に実施される 各種大会・練成 会の参加
シーズン区分)	準備期 1年生入部	充実期	試合期	試合期 3年生引退	準備期 新体制確立	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会・練成会に 参加して見えてきた チーム課題の解決 に向けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・昇段審査会に向 けた日本剣道型の 練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・冬季間における 短時間で効果的な 練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・冬季間における 短時間で効果的な 練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・冬季間における 短時間で効果的な 練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・冬季間における 短時間で効果的な 練習の実践 ・基礎体力づくり ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	桑折町立釧路中学校・野球部	顧問・外部指導者氏名	大戸金光 ・ 榊 友紀博	電話/FAX	024-582-3162 024-582-3157	Email	Joho-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 日常生活に張り合いと潤いをもたせ、有意義な中学校生活を過ごそうとする自主的な態度を育てる。</p> <p>(2) 生涯にわたって活動していこうとする意欲と基礎的な知識技能を身につけさせ、健康・安全に留意した生活ができるように援助指導する。</p> <p>(3) 各種大会の上位入賞をめざすとともに、目標や目的に向かって互いに認め合い、高めあひながら協力し合える人間関係の育成に努める。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 中体連県大会出場を目指す。</p> <p>(2) 基本的な生活を身につけ、学校生活では常に他の模範となる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 野球が大好きで、多くの大会に出場して勝つ喜びを味わいたいと考える生徒である。</p> <p>(2) 基礎的な動きを身につけ、技能を向上させたいと考える生徒である。</p> <p>(3) 軟式野球の戦術について学びたいと考える生徒である。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 学校における全ての教育活動との有機的な関連を図るとともに、地域社会や学校、生徒の実態に即した活動をめざす。</p> <p>(2) 生徒の発達段階に応じ、各活動種目の楽しさを深く味わえるよう系統的な指導に努める。</p> <p>(3) 指導内容を精選し、限られた時間の中で内容の充実した指導に努める。</p> <p>(4) 施設設備を充実させ、その管理と効果的な活用に努めるとともに、安全に留意した行動がとれるよう援助指導する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 生徒の発達段階に応じ、競技の楽しさを感じられる練習を意識する。時間を有効に使い、充実した指導に努める。</p> <p>(2) 競技力だけでなく、中学生として望ましいマナーや礼儀を身につけた生徒の育成をめざす。</p> <p>(3) 望ましい集団を育てるために、学年をこえた活動とリーダーの育成に努める。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) けがや病気など体調不良を訴える生徒に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに、活動前後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 養護教諭と連携し、傷病・事故発生時の校内応急体制やAEDの使用法の周知を図り、緊急時に適切な処置を講ずることができるよう備える。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 軟式野球の知識や技能の向上に向け、練習の援助や指導をする。</p> <p>(2) より高度な技能を身につけられるように積極的な大会参加や練習試合の設定を心がけ、競技をする環境を整える。</p> <p>(3) 外部指導者に協力を仰ぎ、より専門的な練習内容や方法について情報を得て、それをもとにした指導を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、ミーティングを通して課題や成果を指導者や部員が共有し、指導や支援、練習内容の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、生徒間の人間関係や、部内における指導上の問題について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めのPTA総会や部活動保護者会において、校長から部活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 期間から部活動の運営状況や活動実績等について説明するため、保護者会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 平日の放課後に校地内にあるグラウンドで活動する。雨天時は、校舎内北校舎1F廊下及び北校舎階段で体力作りを行う。</p> <p>(2) 休日は積極的な大会参加に努め、大会のない充実期は校地内のグラウンド及び校舎内で活動する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報交換をする。</p> <p>(2) 外部指導者から練習内容や練習方法について情報を得て、練習内容の改善に活かす。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	第1回定期テスト	第2回定期テスト	1学期終業式	2学期始業式		第3回定期テスト 釧中祭	第4回定期テスト	2学期終業式	3学期始業式	第5回定期テスト (1・2年)	卒業式・修了式
各種大会の予定	審判講習会	ジャイアンツ杯県北大会 伊達支部中学校親善野球大会	中体連支部大会 民報杯県北大会 審判講習会 中体連県北大会	民報杯県北大会 中体連県大会 ジャイアンツ県大会	民報杯県大会	中体連新人大大会	県北新人大大会 県新人大大会	県新人大大会				
練習試合・遠征等	毎週土曜日又は日曜日に1日練習試合を設定	大会を除き、毎週土・日曜日に1日練習試合を設定			大会期間を除き、月1回程度、週末に練習試合を設定	大会を除き、毎週土・日曜日に1日練習試合を設定	大会期間を除き、月1回程度、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、月2回程度、週末に練習試合を設定				毎週土曜日に1日練習試合を設定
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	充実期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	充実期
活動内容・ねらい	・新年度における部の練習体制づくりの実施 ・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・新チームにおける練習体制づくりの実施。 ・基礎、基本を身に付けるトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・基礎、基本を身に付けるトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会を終えて冬期の練習会課題の確認。 ・体力作りトレーニング	・冬季練習課題の修正。 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	桑折町立蔵芳中学校・ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	半田実和子・相原泰之	電話/FAX	024-582-3162 024-582-3157	Email	Joho-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 日常生活に張り合いと潤いをもたせ、有意義な中学校生活を過ごそうとする自主的な態度を育てる。 (2) 生涯にわたって活動していこうとする意欲と基礎的な知識技能を身につけさせ、健康・安全に留意した生活ができるように援助指導する。 (3) 各種大会の上位入賞めざすとともに、目標や目的に向かって互いに認め合い、高めあいながら協力し合える人間関係の育成に努める。		各部の活動目標 (1) 有意義な中学校生活を過ごそうとする自主的な態度を育てる (2) 競技に関する知識や技術を身につけるだけでなく、健康や安全に留意した生活ができるように援助指導する。 (3) 「一生懸命取り組み、一勝でも多く勝てるようにする」「明るく楽しく、笑顔が絶えない部活動にする」という生徒の活動目標を踏まえ、目標に向かって互いに認め合い、高めあいながら協力し合える人間関係の育成に努める。			部員のニーズや要望・意見 (1) 多くの大会に出場して勝てるチームになりたいと考えている生徒と、楽しく活動できればよいと考えている生徒が混在している。 (2) 学習に意欲的な生徒が多く、定期テスト前には学習時間を確保したいと考えている生徒が多い。 (3) 特設部や、他の習いごと(水泳、バレエ、ピアノなど)との掛け持ちをしている生徒が多く、両立を図りたいと考えている。		
学校全体の指導方針 (1) 学校における全ての教育活動との有機的な関連を図るとともに、地域社会や学校、生徒の実態に即した活動をめざす。 (2) 生徒の発達段階に応じ、各活動種目の楽しさを深く味わえるよう系統的な指導に努める。 (3) 指導内容を精選し、限られた時間の中で内容の充実した指導に努める。 (4) 施設設備を充実させ、その管理と効果的な活用に努めるとともに、安全に留意した行動がとれるよう援助指導する。		各部の指導方針 (1) 学校の全ての教育活動との関連を図るとともに、生徒の実態や要望に即した活動をめざす。 (2) 生徒の発達段階に応じ、競技の楽しさを感じられる練習を意識する。時間を有効に使い、充実した指導に努める。 (3) 競技力だけでなく、中学生として望ましいマナーや礼儀を身につけた生徒の育成をめざす。 (4) 望ましい集団を育てるために、学年をこえた活動とリーダーの育成に努める。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) けがや病気など体調不良を訴える生徒に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに、活動前後の心身の状態を把握する。 (2) 養護教諭と連携し、傷病・事故発生時の校内応急体制やAEDの使用法の周知を図り、緊急時に適切な処置を講ずることができるよう備える。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) ソフトテニスの知識や技能の向上に向け、練習の援助や指導をする。 (2) より高度な技能を身につけられるように積極的な大会参加や練習試合の設定を心がけ、競技をすすめる環境を整える。 (3) 外部指導者に協力を仰ぎ、専門的な練習内容や方法について情報を得て、それをもとにした指導を行う。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、ミーティングを通して課題や成果を指導者や部員が共有し、指導や支援、練習内容の改善に活かす。 (2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、生徒間の人間関係や、部内における指導上の問題について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度初めのPTA総会や部活動保護者会において、校長から部活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明するため、保護者会を設定する。		各部の指導方法 (1) 平日の放課後に校地内にあるテニスコートまたは町勤労者体育センターにあるテニスコートを借用して活動する。 (2) 休日は積極的な大会参加に努め、大会のない充実期は校地内のテニスコートで活動する。 (3) 指導者や保護者との連携を図り、情報交換に努める。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報交換をする。 (2) 外部指導者から練習内容や練習方法について情報を得て、練習内容の改善に活かす。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	第1回定期テスト	第2回定期テスト	1学期終業式	2学期始業式		第3回定期テスト 願中祭	第4回定期テスト	2学期終業式	3学期始業式	第5回定期テスト (1・2年)	卒業式・修了式	
各種大会の予定		春季地区研修大会 第1次地区Sリーグ	中体連支部総合大会	審判講習会	ソフトテニスフェスティバル 第2次地区Sリーグ 秋季地区新人研修大会	中体連新人大会	県北新人大会		第3次地区Sリーグ	第4次地区Sリーグ	国見カップ		
練習試合・遠征等					大会期間を除き、 月1回程度、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、 月1回程度、週末に練習試合を設定	大会期間を除き、 月1回程度、週末に練習試合を設定	3年生壮行試合	大会期間を除き、 月1回程度、週末に練習試合を設定				
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	
活動内容・ねらい	・新年度における部の練習体制づくりの実施 ・基礎的な技能の向上を目指したトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・ルール、審判の仕方の学習や見直しの実施 ・大会を通して見えてきた課題の解決に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきた課題の解決に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきた課題の解決に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・大会に向け、実践を意識した試合形式の練習の実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・敏捷性や瞬発力、フットワークを意識した体力づくりの実施 ・技能向上に向けたトレーニング	・敏捷性や瞬発力、フットワークを意識した体力づくりの実施 ・技能向上に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県二本松市立安達中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	船木昭一・安齋 充	電話/FAX	0243-53-2104 / 0243-53-2105	Email	Adachi-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を導ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員の実態を十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 柔道の練習や試合を通して、技能と体力の向上を図る。 (2) 他者を尊重する精神や、目標に向かって前向きに取り組む姿勢を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 年間に開催される各種大会の日程を考慮し、それに合わせた活動計画を作成し、見直しを持った活動を行う。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 少人数での活動となるので、週末にはできるだけ合同練習を実施し、技能の向上を図る。 (2) 足腰の筋力と全身持久力を向上させるための基礎トレーニングを平日の活動に取り入れる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 外部コーチとの連絡を密にし、生徒の実態を踏まえた指導を行う。 (2) 個人の技能習得状況の相異を考慮し、それぞれに必要な練習を行わせる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト 文化祭 体育大会	三者面談 期末テスト	終業式	始業式	1・2年期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会	東北大会	地区新人戦大会	県北大会	県新人大会	協会主催大会		地区リーグ戦	地区リーグ戦
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に隔週で1日練習試合を設定		大会期間を除き週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に隔週で1日練習試合を設定				週末に隔週で1日練習試合を設定	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・大会をとおして次の段階へ向けたチームの技術力・精神力の更なる向上へ向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力・持久力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立行健中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	千葉春樹, 結城智子・五十嵐秀夫	電話/FAX	024-932-1815	Email	kouken-tt@edu.city.koriyama.fukushim a.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 興味関心を同じくする生徒同士が、互いに協力しあいながら自発的・自治的な活動を行うことによって、体力や技能の向上を図るとともに、個性の伸長や自主性、社会性の育成に資する。		各部の活動目標 (1) 剣道をととして、体力や技能の向上を図るとともに、礼儀作法や思いやり、自律心、公正さと規律を尊ぶ態度、克己心を培う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 全員が上位大会に勝ち進みたいと考えている。 (2) 全員が単に強だけでなく心も体も鍛えたいと考えている。		
学校全体の指導方針 (1) 充実した中学校生活を送らせるために全員入部を原則とする。 (2) 活動目標や指導方針、月・年間の活動計画を示し、部員が中・長期の見通しをもって活動できるようにする。 (3) 部員とのコミュニケーションを図り、保護者との連絡を密に行い、生徒の発達段階に応じた適切な指導を行う。		各部の指導方針 (1) 活動目標や指導方針、月・年間の活動計画を年度当初と折々に示し、部員が中・長期の見通しをもって活動できるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーション、保護者との連絡を密に行い、生徒の発達段階と技能に応じた適切な指導を行う。 (3) 外部講師を積極的に活用する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 1週間に1日、部休日を設ける。 (2) 怪我や病氣、披露の症状を訴える部員には、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに準備・整理運動と健康観察を行う。 (2) AEDを用いた救急蘇生法講習会を職員と生徒を対象に行う。 (3) 体罰やセクハラ等の相談窓口を複数配置し部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備するとともに、管理職が定期的に見て回るようにする。		各部の指導内容 (1) 剣道の技術・技能。 (2) 体力の向上。 (3) 礼儀作法や思いやり、自律心、公正さと規律を尊ぶ態度、克己心など豊かな心。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 顧問が日常的に声かけをし、気になる生徒には相談を行い、問題について早期発見、早期対応に努める。 (2) 練習や試合の後、話し合いの時間を設け、意見を聞いたり指導助言を行ったりする。		
保護者等への説明機会 (1) PTA総会や学級・学年懇談会、部活動保護者会において、校長や顧問などから部活動について説明する機会を設ける。		各部の指導方法 (1) 外部講師を活用する。 (2) 外部講師の指導内容・方法を踏まえて指導する。 (3) 正顧問、副顧問が連携して指導にあたる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部講師来校時、指導の前後に打合せを持ち、各部員と全体の状況について情報提供をしたり助言をもらったりする。 (2) 外部講師から練習内容や練習方法について指導助言を得る。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式、始業式 新入生歓迎会 部活動結成	生徒会総会 家庭訪問	定期テスト1	終業式	始業式	定期テスト2	文化祭	定期テスト3	終業式	始業式	定期テスト	生徒会総会 3年生を送る会 卒業式、修了式
各種大会の予定		中体連市大会	中体連県中地区大 会	中体連県大会	中体連東北大会	中体連東北大会 中体連新人大会	県中地区新人大会 市民体育祭	県新人大会 相良旗杯大会			支部長杯大会	
練習試合・遠征等	市剣道協会錬成会 市中学校剣道交流 錬成大会	県剣道協会錬成会 福島支部錬成会 県中地区錬成会	明健中合同稽古	あさか開成高校合 同稽古	昇段審査	市剣道協会錬成会 明健中合同稽古	あさか開成高校合 同稽古	明健中合同稽古	明健中合同稽古	あさか開成高校合 同稽古	明健中合同稽古	昇段審査
シーズン区分)	準備期	充実期 試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	基礎練習 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習 チームづくり	各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習 大会に向けての調 整	実践練習 大会に向けての調 整 大会をととして明 らかになった課題 の解決に向けた練 習	実践練習 大会に向けての調 整 大会をととして明 らかになった課題 の解決に向けた練 習	新チームづくり 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習 大会に向けての調 整	実践練習 大会に向けての調 整 大会をととして明 らかになった課題 の解決に向けた練 習	実践練習 大会に向けての調 整 大会をととして明 らかになった課題 の解決に向けた練 習	実践練習 大会に向けての調 整 大会をととして明 らかになった課題 の解決に向けた練 習	体力づくり 基礎練習 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習	体力づくり 基礎練習 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習	体力づくり 基礎練習 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習	体力づくり 基礎練習 各自で高めたい技 能の習得に向けた 練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立明健中学校・女子ソフトボール部	顧問・外部指導者氏名	顧問：佐藤真一、佐藤寛晃 外部指導者：伊藤元治	電話/FAX	024-935-1071/1072	E-mail	meiken-t@edu.city.koriyama.fuk ushima.jp
学校全体に関わって		女子ソフトボール部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		女子ソフトボール部の活動目標 (1) ソフトボールをととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 毎年入部する新入生が少ないため、大会で好成績を上げることで、ソフトボールの魅力や伝えたいと考えている。 (2) 主顧問はソフトボールの専門家であるが県の専門部長であり、外部に出る日が多く、専門的な指導者の支援を望んでいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		女子ソフトボール部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 外部指導者の専門的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		女子ソフトボール部の指導内容 (1) 走力、筋力等の基礎的な体力向上 (2) 打つ、投げる、捕る等の基本的な動作の指導 (3) 基本的なルール理解 (4) チームプレー			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 (2) 顧問と外部指導者との連携を密にし、外部指導者に対しても気軽に相談できる体制をつくる。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		女子ソフトボール部の指導方法 (1) ランニング及び雨天時の筋力トレーニング (2) キャッチボール (3) トスバッティング (4) シートノック			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		定期テスト①	終業式	始業式		定期テスト② 文化祭	定期テスト③	終業式	始業式	定期テスト④	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会		地区新人大会	県新人大会 (協会主催)					
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定			大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定			卒業生壮行試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・新入部員に対する基本的なスキルの定着。 ・練習試合を通じたチームの課題の明確化	・大会に向けたチームプレーの充実 ・基礎的な体力の向上	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	熱海中・特設アイスホッケー部	顧問・外部指導者氏名	近藤桂章、大内康裕	電話/FAX	024-984-3167	Email	atami-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、心身共に健康で粘り強い生徒を育成する。 (2) 上級生・下級生が、同じ目標に向けて共に努力する中から熱海中学校の生徒としての連帯感と協調性を養う。		各部の活動目標 (1) 活動を通して、心身を鍛え、社会性を身につける。 (2) 全国大会での1勝を目標に、一人一人が高い意識で活動する。 (3) チームの一員としての自覚を持たせる。			部員のニーズや要望・意見 ○小学生の時から継続して、競技に取り組んでおり、各選手とも全国大会レベルの経験をしている。アイスホッケー部に入部するために、学区外通学生がいる。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒だけの活動お建け、顧問教師の適切な指導のもとに実施する。 (2) 指導内容を精選し、生徒たちが主体的に活動できるよう工夫する。 (3) 後始末と用具施設の整理整頓、清掃などを徹底する。 (4) 完全下校時刻を徹底する。		各部の指導方針 (1) あいさつ、礼儀、マナーをしっかりとできる生徒を育てる。 (2) 生涯にわたって、アイスホッケーを続ける生徒を育てる。 (3) 日常生活で意欲的な態度を育てる。			部員の心身の疲労回復への配慮 ○けがや病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 事故防止には、細心の注意を払い指導にあたり、特に、休日の事故防止に努める。 (2) 練習場所の郡山スケート場までの移動の際の交通事故防止についての指導を徹底する。 (3) AEDや救急救命法の研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。		各部の指導内容 (1) 基本スケーティング、スティックハンドリングを身につけさせる。 (2) 体幹トレーニングを通して、健康な体をつくる。 (3) 戦術練習を通して、視野を広げられるようにする。			部員とのコミュニケーションの方策 ○顧問が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) PTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 練習計画を節目に発行し、活動内容について保護者に情報を提供し、理解を得る。		各部の指導方法 (1) 時間や決まりをしっかりと守り、活動することができるように指導する。 (2) スケートリンク以外の練習として、ランニング・体幹トレーニングを実施する。			指導スタッフ間の連携策 ○外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動結成		定期テスト	終業式	始業式		文化祭	定期テスト	終業式	始業式 定期テスト3年	定期テスト 1, 2年	卒業式 修了式
各種大会の予定						中体連 新人戦		県総体参加	中体連：東北	中体連：全国 東日本ジュニア		全日本少年
練習試合・遠征等								新潟合宿(1)	新潟合宿(2)			
シーズン区分)	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 各部活動	準備期 陸上練習	準備期 陸上練習	準備期 陸上練習	充実期・試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習	試合期 氷上練習
活動内容・ねらい					スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	スタミナ・筋力 スピード 体幹作り	氷上基本練習 体幹作り	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合	戦術練習 練習試合

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	熱海中・特設スピードスケート部	顧問・外部指導者氏名	常盤優子、吾妻義尚	電話/FAX	024-984-3167	Email	atami-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、心身共に健康で粘り強い生徒を育成する。 (2) 上級生・下級生が、同じ目標に向けて共に努力する中から熱海中学校の生徒としての連帯感と協働性を養う。		各部の活動目標 (1) スピードスケートの普及を図るため、低学年から合同で活動を行う。 (2) 上位大会への進出を目指し、自己記録を伸ばす。 (3) 互いに競い合い、高いレベルで活動する。			部員のニーズや要望・意見 ○部員は小学校の時から、スピードスケートクラブで練習に取り組んでいる。中学生3年生は、夏以降に高校生と一緒に練習し、国体に向けて練習に取り組む。		
学校全体の指導方針 (1) 顧問教師の適切な指導のもとに実施する。 (2) 指導内容を精選し、生徒たちが主体的に活動できるよう工夫する。 (3) 後始末と用具施設の整理整頓、清掃などを徹底する。 (4) 完全下校時刻を徹底する。		各部の指導方針 (1) あいさつ、礼儀、マナーをしっかりとできる生徒を育てる。 (2) 生涯にわたって、スピードスケートを続ける生徒を育てる。 (3) 日常生活で意欲的な態度を育てる。			部員の心身の疲労回復への配慮 ○けがや病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 事故防止には、細心の注意を払い指導にあたり、特に、休日の事故防止に努める。 (2) 練習場所の郡山スケート場までの移動の際の交通事故防止についての指導を徹底する。 (3) AEDや救急救命法の研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。		各部の指導内容 (1) スケーティング技術の基本トレーニング。 (2) コーナワークの技術トレーニング。 (3) 筋持久力と柔軟性の強化。			部員とのコミュニケーションの方策 ○顧問が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) PTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 練習計画を節目に発行し、活動内容について保護者に情報を提供し、理解を得る。		各部の指導方法 (1) 県スケート連盟の指導方針にそった活動を行う。 (2) 複数の指導者でポイントを押さえた指導を行う。			指導スタッフ間の連携策 ○外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動結成		定期テスト	終業式	始業式		文化祭	定期テスト	終業式	始業式 定期テスト3年	定期テスト 1, 2年	卒業式 修了式
各種大会の予定									中体連：県大会 中体連：東北大会	中体連：全国大会	市民体育祭	選手権大会
練習試合・遠征等			県外遠征	県外遠征 合同練習：高校	合同練習：高校	合同練習：高校	県外遠征 合同練習：高校					
シーズン区分)	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	充実期 屋内練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習	試合期 屋外練習
活動内容・ねらい			基礎体力向上 筋力強化トレーニング	基礎体力向上 筋力強化トレーニング	滑りトレーニング	筋力・持久力トレーニング	Saqトレーニング ・スピード ・敏捷性 ・瞬発力	大会を想定したトレーニング				

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立守山中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 五十嵐正広、外部指導者 柳沼 由衛	電話/FAX	024-955-3108 024-955-3132	Email	moriyama-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して心身の健全な発達を図り、技能や体力の向上に努める。</p> <p>(2) 上級生・下級生の学年を越えた幅広い交友関係の中で、豊かな人間性を形成する。</p> <p>(3) 集団の一員としての役割を理解させ、公正・協力・責任等の態度を養い、自己の能力に応じた目標の達成を目指し、厳しく自らを律して根気強く努力する態度や気力を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 「礼に始まり礼に終わる」柔道という武道の特性を理解し、礼儀や相手を尊重する態度を養う。</p> <p>(2) 集団の一員として、望ましい人間関係を育成する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 各種大会で上位に入りたい、県大会や東北大会に進める力や技を身につけたいと考えている。</p> <p>(2) 部活動だけでなく、学力の向上も考えており、週に2回は部活動終了後に塾に通う生徒が居る。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員との良好な信頼関係を築き、発達段階に応じた心身共にバランスの取れた成長を促すための指導を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各種大会に参加する機会を多く持つことにより、各自が目標を持って毎日の練習に取り組む。</p> <p>(2) 勝つための技術の習得だけでなく、お互いに尊重しあい、互いに高めあえる人間関係の育成をはかる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 中体連の直前は難しいが、週末の週休日の1日は休業日にする。週休日に連続して大会がある場合はその翌日を休業日とする。</p> <p>(2) ケガや体調不良を訴える生徒は練習に参加させない。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 練習場所の定期的な点検を行い、ケガの防止につとめる。</p> <p>(2) 顧問が練習場所に居ないときには、打ち込みや乱取りは行わず、筋トレ程度を行いケガの防止につとめる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習を中心に、筋肉トレーニングや打ち込み投げ込み、乱取りを行う。</p> <p>(2) 相手が居るから試合ができることを理解させ、感謝の気持ちをもって試合・練習に取り組むよう指導する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習の前後で部員と話をし、練習上の悩みだけでなく生活面での悩みや不安を解決するように支援する。</p> <p>(2) 試合や練習の後は、試合の振り返りを行い指導を行う。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めに部活動保護者会を開き、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度中や年度終わりにも顧問や保護者からの要望により、保護者会を開き活動状況や活動結果について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 毎日の練習に顧問教師が付きケガの防止に努めるとともに、望ましい人間関係が築けるように見ていく。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打合せを行い、柔道の内容だけではなく学校生活などの情報を提供する。</p> <p>(2) 外部指導者から、適切な練習内容や練習方法などの情報を得て、毎日の練習に反映させる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動編成	授業参観①	定期テストI	授業参観② 1学期終業式	2学期始業式 夏休み成果テスト	1日総合学習 定期テストII	校内球技大会 校内文化祭	教育相談 定期テストIII	授業参観③ 2学期終業式	3学期始業式	定期テストIV	卒業式、終了式 離任式
各種大会の予定		県中県南中学校柔道大会	市中体連 県中地区中体連	中体連県大会	中体連東北大会	市中体連新人戦	県中地区中体連新人戦	中体連新人戦県大会	柔道練成大会		石川柔道大会	県柔道強化大会
練習試合・遠征等	週末に不定期で練習試合に参加	週末不定期で練習試合に参加			自衛隊合宿	週末に不定期で練習試合に参加		週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加	週末に不定期で練習試合に参加
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	充実期	準備期
活動内容・ねらい	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習		・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・大会を通して見えてきた、各自の課題を解決するための練習	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷力、瞬発力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	郡山市立郡山第七中学校剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 影山 暁 天野 幸喜 外部指導者 齋藤 節朗	電話/FAX	951-8200	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 ○ 剣道を通しての、生徒の心身の向上をめざすとともに、武道における礼儀作法を身につける。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるようになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 ○ 厳しい練習を継続し、精神力や技能の向上をめざす。			部員の心身の疲労回復への配慮 ○ 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 ○ 基礎的練習や、補助練習、けいこを行う。外部指導者の持っている技能を生徒に伝えてもらうとともに、技能の向上をめざす。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 ○ 剣道の「型」を通じての、基礎力の向上を図る。また技術のみならず、剣道を通して、日本古来の伝統文化をも学ぶ。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式			文化祭 期末考査		終業式	期末考査		卒業式・修了式
各種大会の予定			地区大会	県大会			地区新人大会					
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定		大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定		大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	準備期	試合期	試合期	充実期	充実期	充実期	充実期	充実期	充実期	充実期	充実期
活動内容・ねらい						・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けた練習 ・各自で高めたい技能の習得に向けた練習	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けた練習 ・各自で高めたい技能の習得に向けた練習	・筋力、全身持久力の向上を目指した練習	・筋力、全身持久力の向上を目指した練習	・敏捷性、瞬発力の向上を目指した練習	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けた練習 ・各自で高めたい技能の習得に向けた練習	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けた練習 ・各自で高めたい技能の習得に向けた練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県天栄村立天栄中学校	顧問・外部指導者氏名	顧問：花安剛紀・大和田深幸 外部指導者：明石邦宏	電話/FAX	電話：0248-83-2222 FAX：0248-83-2229	Email	tenei-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒の育成を図る。		各部の活動目標 (1) 一人一人技術の向上の努め、上位大会出場を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 技術の向上および上位大会への出場を希望している。		
学校全体の指導方針 (1) 各種大会へ積極的に参加し、心身の向上を図る。		各部の指導方針 (1) 集団の一員として自分の役割を果たし、社会性を身につけさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に一度の休養日を設け、生徒の負担加重にならないように配慮している。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 常に顧問か外部指導者と一緒に指導するようにし、事故防止と不適切な指導につながらないように十分に共通理解を図りながら指導に当たる。		各部の指導内容 (1) 外部指導者の豊富な競技経験を生かし、練習メニューを工夫すると共に、生徒が主体的に自己の技能向上のために各練習メニューの意図や目的を理解した上で取り組むことができるようにする。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 大会出場メンバー等については、部長や部員と話し合いを行いながら決定している。		
保護者等への説明機会 (1) 年2回保護者会を開き、活動について話し合う。外部指導者にも参加していただき、指導方針等について直接保護者に説明していただく。		各部の指導方法 (1) 外部指導者の経験と専門性が発揮できる場面、顧問が生徒の実態に応じて声かけを行う場面等、両者の適性を踏まえた指導を効果的に行うことで心技体の調和のとれた選手育成につながるようにする。			指導スタッフ間の連携策 (1) ミーティングを多く設け、連携を密にして取り組んでいる。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	新入生歓迎会 部活動紹介 新入生仮入部		期末テスト	終業式			中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式		期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定	協会大会	協会大会	協会大会 中体連	協会大会	協会大会	協会大会 中体連		協会大会	協会大会	協会大会		協会大会
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	基本	試合期	試合期	基本	基本	試合期	基本	基本	基本	基本	基本	基本
活動内容・ねらい	試合の基本を身につけさせる	試合の仕方を学ぶ	試合の仕方を学ぶ	新チーム作りをする 基本を身につけさせる	基本を身につけさせる	試合の仕方を学ぶ	基本練習を行う	基本練習を行う	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする	基本練習を行う 体力作りをする

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	古殿町立古殿中学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	鈴木浩子・鈴木 博敏	電話/FAX	0247-53-3135 / 0247-53-3136	Email	school@furudono-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 生徒の自発的な参加により、共通の活動の中に、相互理解・相互協力を確立し、集団の目標達成に貢献しながら、個人の目標の達成に努める。 (2) 部活動を通して、体力の向上、技術・技能の習熟を図るとともに、より良い人間関係、よい思い出をつくる。		各部の活動目標 (1) 部員同士や指導者との望ましい人間関係を構築し、休まず自発的に活動し、体力の向上に努める。 (2) より高い技能の習得を目指すとともに、部活動を通して、人間としての成長を促す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 試合で勝ちたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 進路にむけて、学習時間を確保したいと考えて、土日は通塾している生徒もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも自主的・自発的に活動が進められるように組織化に努め、目標や計画を明確に示し、部員全員が一丸となって活動に取り組めるようにする。		各部の指導方針 (1) 怪我や事故のないように、指導内容や方法を検討・改善し、毎日の指導を行う。 (2) 勝つことだけにこだわるのではなく、運動の基礎・基本の習得、体力の向上、仲間との連帯感を育成する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設設備・用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDの使い方や救命救急法についての研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 礼儀を大切に、活動時間を充実したものにする。 (2) 柔道の受け身や投げ技等の習得をする。 (3) 中学校卒業後の活動に生かせる体力を育成する。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記録した用紙を指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績、成果や課題等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 顧問と部長の連携を密にし、毎日練習メニューを確認し、練習を行う。 (2) 怪我や事故防止のため、お互いの体力や特性、健康状況を確認しながら、練習を行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から技術・技能の向上を目指した練習内容や方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末テスト	終業式	始業式 成果テスト		学校祭 中間テスト	期末テスト	終業式	始業式 成果テスト	期末テスト	卒業式・修了式	
各種大会の予定	協会主催大会		地区大会	県大会		支部新人大会	地区新人大会	県新人大会	協会主催大会			協会主催大会	
練習試合・遠征等		大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定		大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定	大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定			大会期間を除き 週末に隔週で1日 合同練習を設定		
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期	
活動内容・ねらい			・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング	・筋力、全身持久 力の向上を目指した トレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	田村市立常葉中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	顧問 上遠野 正・渡辺春江 外部指導者 浦山正一	電話/FAX	0247-77-2330 FAX 0247-77-2331	Email	school@tokiwa-j.fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) あいさつ、返事など礼儀を大切にし、仲間の気持ちを考え、チームを大切にすること。 (2) コーチのご指導を大切にしながら、自分を振り返り、より良いプレーを目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する		各部の指導方針 (1) 生徒ひとりひとりとの関係性を大切にしながら、卓球を通して、卓球と向き合い、自分と向き合い、自分でも目標を立て、達成に向けて自主的に考え、行動できるように指導する。 (2) 講習会、練習試合参加などを通して、様々な角度から自分を見つめ直し捉え直しができるように指導する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 用具の老朽化について伝え、気をつけるよう繰り返し指導する。こまめな休憩、水分補給を実施し、熱中症などに対応する。 (2) 生徒の様子を日々よく観察し、異常などについては複数職員で対応する。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したプリント指導を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 部活動保護者会や、練習試合など、顔を合わせる機会を大切にし、生徒の様子や報告や家での様子の把握に努め、信頼関係を築く。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	学習旅行 生徒会総会	中間考査	教育相談		生徒会役員選挙	前期終業式 後期始業式	教育相談 高校説明会		3年 後期期末テスト	1・2年 後期期末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	協会主催講習会	協会主催大会 協会主催講習会	地区新人大会		協会主催大会	協会主催大会		協会主催大会	協会主催大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定		月に1回程度練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	月に1回程度練習 試合を設定	月に1回程度練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定		月に1回程度練習 試合を設定	月に1回程度練習 試合を設定
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	充実期	充実期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・ボール操作を高めるトレーニング	・大会へ向けて自分の課題解決とさらなる技術向上に向けたトレーニング	・基礎を再確認し、何が足りないのかを考え、気づきを通して課題解決に向けたトレーニング	・基礎を再確認し、何が足りないのかを考え、気づきを通して課題解決に向けたトレーニング	・対外試合も含め自分を振り返り、自己の技術向上に向けたトレーニング	・大会に向けての連携プレーや、個人技術の確認、さらなる磨き上げに向けた練習	・大会を通して見えてきたチーム・個人の課題の解決に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム・個人の課題の解決に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム・個人の課題の解決に向けたトレーニング	・大会に向けてどう自分を鍛えるか考え実行できる練習。見えてきた課題の解決に向けたトレーニング	・大会に向けてどう自分を鍛えるか考え実行できる練習。見えてきた課題の解決に向けたトレーニング	・大会に向けてどう自分を鍛えるか考え実行できる練習。見えてきた課題の解決に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	田村市立常葉中学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	顧問 白岩恒雄・塚原まゆみ 外部指導者 郡司栄子	電話/FAX	0247-77-2330 FAX 0247-77-2331	Email	school@tokiwa-j.fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 県大会出場を目標として、チーム一丸となって努力する。 (2) 部活動を通じて、人として成長できるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する		各部の指導方針 (1) 個々の体力や技術に応じた練習を行うように工夫する。 (2) 一人一人が、自分の役割を果たすことで、所属感や成就感を高められるようにする。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 体力向上のため基礎トレーニングの仕方を指導する。 (2) バスカ、レシーブカ、スパイク力向上のための練習の仕方 (3) 試合における展開力を高める練習の工夫を行う。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 長期的な練習計画を立てて、日々の具体的な練習メニューを示して指導を行う。 (2) 日々の練習において、生徒一人一人の状況を見ながら適切なアドバイスを行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	学習旅行 生徒会総会	中間考査	教育相談		生徒会役員選挙	前期終業式 後期始業式	教育相談 高校説明会		3年 後期期末テスト	1・2年 後期期末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会				地区新人大会				準備期	準備期
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定		大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定		週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・ボール操作を高めるトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・各自で高めるべき技能の習得	・各自で高めるべき技能の習得	・大会に向けての連携プレーの練習	・大会に向けての連携プレーの練習	・大会に向けての連携プレーの練習	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・瞬発力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	柔道部	顧問・外部指導者氏名	須藤 忍・松本勝昭	電話/FAX	0247-82-0102/0247-82-1888	Email	Assist.funehiki-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 心身の健全な育成を目指し、体力の向上と技術の習得を図る。</p> <p>(2) 顧問及び生徒相互の望ましい人間関係を育てるとともに、練習を通して規律ある生活の習慣化を促す。</p> <p>(3) 生徒の活動の場ということを考えて指導する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)部活動を通して、技術向上だけでなく、あいさつや礼節をしっかりと身につけた立派な人間になる。</p> <p>(2)練習できることに感謝し、互いに思いやる気持ちを育てる。</p> <p>(3)団体戦で県大会へ出場する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 「試合で勝てるようになりたい。」「県大会で上位に入りたい」と思っている生徒が多い。</p> <p>(2) 「柔道をしている以上、黒帯を取得したい。」と思っている生徒がほとんどである。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部活動結成会の際に、年間の活動目標や活動内容、年間計画等を明確にすることで、目標や見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1)部内での自分の役割や存在意義をしっかりと理解させ、仲間と協力し成し遂げることでしか味わえない達成感や充実感に結びつくような部活動指導を展開する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 土日のどちらか1日は休養日とする。土日に大会が入った場合は翌日を休養日とする。</p> <p>(2) ケガや体調が悪くない場合は無理をさせず、通院や休養を支持し、疲労蓄積排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 個人の体格や能力に合わせた技術指導と、基礎体力の定着の為にトレーニングの実施。</p> <p>(2) 危険な技や反則技について日々の練習の中でその都度指導し、理解させる。</p> <p>(3) 活動前後に心身の状態を把握する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1)柔道における受身や打ち込み等の基礎基本の反復練習および実践練習を行う。</p> <p>(2)必要に応じて筋力や瞬発力、持久力、体幹トレーニングの実施。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 着替えて生徒と一緒に練習をする。</p> <p>(2) 普段から会話を多く交わし、悩みなどの相談を言えるような関係を築くようにしている。(部活動ノートの活用)</p> <p>(3) 試合を録画し、今後の成果につながるようなアドバイスに努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めと夏休み以降に保護者会を実施し、活動目標や内容等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) ケガをしたり、様子がおかしいと思った日は保護者へ電話連絡、報告をする。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)基本としては2人組みでの練習となるため、実力や体格がほぼ同じ生徒同士で組ませる。</p> <p>(2)短時間で集中して取り組ませる練習メニューを考案し、実践している。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 電話等で、連絡を取り合い、より良い指導となるように努める。。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 家庭訪問	校内陸上大会 漢字コンテスト	前期中間テスト 学習旅行	終業式 教育相談	実力テスト	前期末テスト	校内球技大会 前期終業式 後期始業式 文化祭	学校公開 後期中間テスト	授業参観 計算コンテスト	立志式 スプリングコンテスト	後期末テスト 授業参観	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	中体連 (支部・県中)	中体連 (県)	中体連 (東北・全国)	新人戦 (支部)	新人戦 (県中)	新人戦 (県) 昇段審査	協会主催大会		協会主催大会	協会主催大会
練習試合・遠征等	週末に1回程度、 県中地区強化練習 会(不定期)										→	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期 (準備期)	準備期	充実期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・部活動の年間目標の設定。 ・新入部員の勧誘、指導	・団体強化および、各個人の技術向上に向けた指導。 ・大会での反省を生かし、体力、技術の向上を目指したトレーニング。 ・体重、体調の管理。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・新チームによる目標の設定。 精神力、体力の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・短時間で集中して練習に取り組ませる。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・体力・技能の向上を目指したトレーニング。	・大会に向けて調整練習ならびに体重や体調管理。 ・各自で高めて生きたい技能の習得を目指したトレーニング	・筋力、体力、持久力の向上を目指したトレーニング。 ・各自で高めて生きたい技能の習得を目指したトレーニング	・大会で得た課題を克服するトレーニング。 ・各自で高めて生きたい技能の習得を目指したトレーニング	・大会で得た課題を克服するトレーニング。 ・各自で高めて生きたい技能の習得を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	三春町立三春中学校三春中学校 剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 宗像美英子、土田功 外部指導者 佐久間いつ子	電話/FAX	0247-62-2181/0247-62-6978	Email	miharu-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 生徒一人一人の実態に応じ、気力や体力、個性などの伸長を図る。</p> <p>(2) 活動をととして心身の健全な発達を助長し、中学生として望ましい態度を養う。</p> <p>(3) 集団の一員としての役割を自覚させ、互いに協力し友情を深めるとともに、自主的な態度を養う。</p> <p>(4) 時間を有効に使う態度を養い、個性に合った趣味・特技・教養を身につける。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部員全員がそろって活動できるようにする。</p> <p>(2) 他の部活動よりも大きな声で練習等の活動をする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員がいる反面、運動に親しむことを目的としている部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒一人ひとりの活動状況を観察し、適切に援助しながら、その個性や慎重に努める。</p> <p>(2) 部活動顧問は、学級担任と連絡、協力を密にし、生徒指導の充実を努める</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 精神的に弱い生徒が多く、少しの擦り傷でも気持ちが萎えてしまう生徒がいるため、我慢をしたり、目標へ向かって努力したりする心を育てるようにする。</p> <p>(2) 技術を磨き、試合で勝利を目指す向上心を培えるようにする。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌週に休養日とする。</p> <p>(2) 腰痛を持つ生徒、心身的な持病を持つ生徒もいるため体調の確認・把握に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 初心者へ配慮をしながら、竹刀ふり、足さばき、基本の打突等の基礎的な技術をしっかりと身につけさせる。</p> <p>(2) 「試合で旗を挙げてもらう」にはどうすればいいのか常に意識して稽古をさせる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述した部日誌を活用し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 顧問が意図的に教育相談を行い、部員の指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) あいさつ、返事が大きな声でできるようにさせる。</p> <p>(2) 上級者が初心者に指導できる場を設定して、教え合いながら練習に取り組めるよう配慮する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から練習内容や練習方法等の情報を獲得する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動結成		中間テスト	教育育相談 夏季休業	夏季休業	期末テスト	終業式・始業式 文化祭	教育相談 中間テスト	教育相談 冬季休業	冬季休業	期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定			支部総合大会 地区総合大会			支部新人大会 三方部大会	地区新人大会 田村防犯大会					
練習試合・遠征等		県中地区練成会 田村地区練成会				県中地区練成会 田村地区練成会						
シーズン区分)	総合大会前	総合大会前	総合大会前	新人戦前	新人戦前	新人戦前	基礎的なトレーニング	基礎的なトレーニング	基礎的なトレーニング	基礎的なトレーニング	基礎的なトレーニング	基礎的なトレーニング
活動内容・ねらい	体力作り 基本練習	体力づくり 基本練習 中体連へ向けた技の練習強化 試合稽古	体力作り 基本練習 中体連へ向けた技の練習強化 試合稽古	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習 新人戦へ向けた技の練習強化 試合稽古	体力作り 基本練習 中体連へ向けた技の練習強化 昇段審査	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習	体力作り 基本練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	西郷村立西郷第一中学校・ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	小豆畑隆則・鈴木俊晴	電話/FAX	(0248)25-2135/(0248)48-1035	Email	@nishigo1-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 体育に関する興味関心を高め、技能の向上を図るとともに、望ましい人間関係の育成に努める。		各部の活動目標 (1)ソフトテニスの楽しさを味わうとともに、技能の向上を目指し、練習に取り組む。練習を通して、部員が協力して活動できるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 全国大会出場を目標にしている。 (2) 練習時間が長いのが、学習面にも熱心に取り組みたいと考えている生徒もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒の主体性を尊重した活動を行い、活動の楽しさを味わうことができるようにさせる。		各部の指導方針 (1)全国大会に出場し、上位進出を目指すため、各部員が意欲的・積極的にソフトテニスの練習に取り組むことができるようにさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に1日は休養日を設定している。また、土・日と2日続けて大会に出場した場合には、翌日の月曜日を休養日にしている。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 職員会議等で、部活動の指導方法についての検討を行う。		各部の指導内容 (1) 技能の向上のため、基本練習に力を入れて取り組ませる。 (2) 各種大会や練習試合を通して、自己の課題を把握させる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部活動の時間だけでなく、学校生活内でも顧問から声かけを行う。 (2) 部活動の休憩時間内に、顧問から積極的に声かけをする。		
保護者等への説明機会 (1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1)放課後の活動をメインに、休日は、保護者と顧問が協力して指導していく体制で行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に定期的に、顧問から部員の練習の様子や学校での生活について情報を提供する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区中体連	県中体連	東北中体連 全国中体連	地区新人戦		県新人戦				連盟主催大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向けた トレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向けた トレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	西郷村立西郷第一中学校・野球部	顧問・外部指導者氏名	竹島明、下田利幸、鈴木悦男	電話/FAX	(0248)25-2135/(0248)48-1035	Email	nishigo1-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 体育に関する興味関心を高め、技能の向上を図るとともに、望ましい人間関係の育成に努める。		各部の活動目標 (1) 野球の楽しさを味わうとともに、技能の向上を目指し、練習に取り組む。練習を通して、部員が協力して活動できるようにする。			部員のニーズや要望・意見 (1) 県大会出場を目標にしている。 (2) 練習時間が長いのが、学習面にも熱心に取り組みたいと考えている生徒もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 生徒の主体性を尊重した活動を行い、活動の楽しさを味わうことができるようにさせる。		各部の指導方針 (1) 県大会に出場し、上位進出を目指すため、各部員が意欲的・積極的に野球の練習に取り組むことができるようにさせる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に1日は休養日を設定している。また、土・日と2日続けて大会に出場した場合には、翌日の月曜日等を休養日にしている。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行う。 (2) 職員会議等で、部活動の指導方法についての検討を行う。		各部の指導内容 (1) 技能の向上のため、基本練習に力を入れて取り組ませる。 (2) 各種大会や練習試合を通して、自己の課題を把握させる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部活動の時間だけでなく、学校生活内でも顧問から声かけを行う。 (2) 部活動の休憩時間内に、顧問から積極的に声かけをする。		
保護者等への説明機会 (1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 放課後の活動をメインに、休日は、顧問と外部指導者、保護者が協力して指導していく体制で行う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に定期的に、顧問から部員の練習の様子や学校での生活について情報を提供する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間テスト 体育大会	期末テスト	終業式	始業式	修学旅行 学習旅行	中間テスト 文化祭	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定		ジャイアンツ杯県 南大会・さつき 杯・浅川中 PTA 杯・県総体・大信 杯	県南地区中体連	JA 組合長杯 紅獅子旗野球大会 県南予選 東北新人支部予選	滝流灯大会・紅獅 子旗野球大会・東 北新人県南予選 CKB大会	西郷ふれあいカッ プ 中体連支部新人大 会	県南新人大会 県新人大会	まつくつ杯				
練習試合・遠征等	週末に練習試合を 設定	大会期間を除き週 末に練習試合を設 定	大会期間を除き週 末に練習試合を設 定	大会期間を除き週 末に練習試合を設 定	大会期間を除き週 末に練習試合を設 定	大会期間を除き週 末に練習試合を設 定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	大会期間を除き週 末に1日練習試合 を設定				大会期間を除き週 末に練習試合を設 定
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング	・大会をとおして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	棚倉町立棚倉中学校 ホッケー部	顧問・外部指導者氏名	小泉祐佳・緑川 和芳	電話/FAX	0247-33-3176 / 0247-33-2224	Email	school@tanagura-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 同じ興味・関心を持った生徒同士が、主体的に参加し、学年を越えた集団活動のなかで自主的・自立的な態度を養い、望ましい人格を形成することを目的とする。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 生徒一人一人が興味・関心を持ち、練習に主体的に参加し、学年を越えた集団活動のなかで自主的・自立的な態度を養うことを目的とする。また、部活動指導を通して、望ましい人格の形成を図るとともに、集団内での望ましい人間関係の育成を図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全国大会制覇を目指し、高い目標を掲げ努力する部員が多く見られる。ただ、意識が低い部員は、体調不良などを理由に部活動を休みがちである。</p> <p>(2) 練習等での疲労の蓄積で、家庭学習への取り組みが不十分になりがちな生徒が見られる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒相互、生徒と教師の人間関係を大切にし、保護者の理解を得て協力し合える集団の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒の願いが十分反映されるよう、自主的・民主的であることを大切にし、豊かなバランスの取れた活動運営を心がける。</p> <p>(3) 持続性と集中性のある活動によって高まった、力量ある集団をつくり、それぞれの活動の専門性を生かし、生徒会活動に還元されるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 全国大会制覇を目指し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> <p>(2) 他競技者との接触やボールが身体に当たることにより発生するけがの多い種目であり、練習前のアップやダウンなどに時間をかけ、身体のケアをするとともに、集中して練習に取り組ませる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(4) つまずきのある生徒に対しては、本人(保護者の了解を得て)、学級担任、顧問の三者で相談し、適切な助言指導を随時行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 筋力、全身持久力、敏捷性、瞬発力の向上のためのトレーニング。</p> <p>(2) ホッケーの基礎的な技術の習得のためのトレーニング</p> <p>(3) 様々な戦術を意識した試合形式での練習</p> <p>(4) チーム力の向上を図るためのミーティング</p> <p>(5) 望ましい人間関係の育成のためのミーティング</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートを活用し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的に部員とのコミュニケーションを多く取り、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問は毎日の練習の支援や練習試合の引率などを行う。外部指導者は技術的な指導を中心に行ってもらい、都合のつく時には練習試合や大会の引率なども行い、実践での指導やゲームでの指示、レフリー等も積極的に行うなど活動する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と顧問との打合せを随時行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	1学期中間テスト	1学期期末テスト	1学期終業式	2学期始業式		2学期中間テスト 文化祭	2学期期末テスト	2学期終業式	3学期始業式 学年末期末テスト (3年)	学年末期末テスト (1, 2年)	卒業式 修了式
各種大会の予定			地区大会	東北大会	全国大会	地区新人戦		東北新人大会 協会主催大会				
練習試合・遠征等	県外遠征		地元での招待試合 県外遠征	県外遠征			県外遠征		県外遠征		県外遠征	地元での招待試合
シーズン区分)	準備期	充実期	充実期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング	・練習試合を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング		・新チーム体制の確立 ・基礎的な技術の習得に向けたトレーニング	・練習試合を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・試合形式の練習を中心とした実践的なトレーニング		・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	会津若松市立第六中学校 剣道部	顧問・外部指導者氏名	中島誠太郎 ・ 小田親紀	電話/FAX	0242-22-5153/0242-32-6402	Email	school@aizuwakamatsu6-j.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、運動時間の拡大を図り、進んで健康安全を守り、身体的・精神的に明朗快活で強固な生徒を育成する。		各部の活動目標 (2) 武道の楽しさを理解し、日頃の練習で技術の向上を図るとともに、身体的・精神的に明朗快活で強固な生徒を育成する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 中学校から始める生徒が多く、基礎基本の充実を図りた生徒が多い。		
学校全体の指導方針 (1) 健康安全面に配慮し、生涯を通してスポーツに親しむ能力を育成する。		各部の指導方針 (1) 個人の技能を向上させるとともに、チーム力の向上を図る。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1回の休養日を確保し、生徒の状況を把握しながら活動する。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 施設設備を定期に点検する。 (2) 顧問の定期的な安全に関する講習会を実施するとともに緊急マニュアルを理解し、実践できる体制づくりに努める。		各部の指導内容 (1) 年間を見通した練習計画作成し、無理のない練習内容を実施する。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 技能の向上ばかりでなく、顧問と生徒のコミュニケーションを図る時間を設け、主体的な部活動の運営に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 保護者会において、外部指導者制度を説明し、理解を得る。		各部の指導方法 (1) 生徒の体力等を配慮し、計画的に練習を進め、心身ともに成長で生徒を育成する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 中学校の指導方法を外部指導者に伝え、中学校主体の練習を進める。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 始業式	中間テスト	期末テスト	終業式	始業式		中間テスト 文化祭		終業式		期末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定			市中体連 全会津大会	県大会		新人大会						
練習試合・遠征等		錬成会	錬成会		錬成会	錬成会			錬成会		錬成会	
シーズン区分)	準備期間	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間
活動内容・ねらい	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。	練習を通して、技術の向上を図る。	練習の成果を大会に発揮する。	練習の成果を大会に発揮する。	練習を通して、技術の向上を図る。	練習の成果を大会に発揮する。	練習を通して、技術の向上を図る。	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。	練習を通して、課題を把握し、技術の向上を図る。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県会津若松市立河東中学校・弓道部	顧問・外部指導者氏名	顧問:南雲 幸恵・外部指導者:目黒 明美	電話/FAX	0242-75-3011 / 0242-75-3012	Email	school@kawahigashi-j.fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 全校生徒、全職員がそれぞれの部に所属し、集団活動を通して調和のとれた望ましい人間関係の育成に努める。 (2) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (3) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 中体連、全国大会出場を目指して県大会優勝を目指す。 (2) 弓道を通して礼儀作法を身につけ、社会に通用する人格の形成を図る。 (3) 部員同士で技術等を教え合う中から、互いに協力し感謝し合う関係を育てる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進める技術を身につけたいと考えている部員と弓道を楽しみたいと考えている部員が混在している。 (2) こつこつ基礎練習を行えない生徒と、弓道の本質を理解し、的確な練習を重ねられる生徒と二極化している。		
学校全体の指導方針 (1) 学年の発達段階に応じて、個々の能力に応じた指導を心がける。 (2) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (3) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 弓道の技術習得を通して、粘り強く努力を積み重ねることの大切さを理解させる。 (2) あいさつや礼儀、美しい立ち居振る舞いの習得を通して、武道の精神に触れさせる。 (3) 率先して仕事を見つけて働いたり、練習方法を工夫・試行錯誤したりと、自分で考えて行動できる生徒の育成に努める。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 射技と体配 (2) 安全に配慮した部活動 (3) 弓道に必要な体力作りのための練習			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習を振り返り、感じた課題や成果を記述したプリントに顧問が目を渡し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 生徒観察と日常的な声掛けを心がけ、部内における人間関係や指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めの部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 各種大会の成績について便りを作り、保護者に報告する。		各部の指導方法 (1) 習得段階に応じたメニューを作成し反復練習させることで、基本を確実に定着させる。 (2) 土日には試合形式の練習を行い、体配を修練させ、試合運営に慣れさせる。 (3) 正しい射形を身に付けさせるために、顧問と外部講師が一人ひとりに合った改善点を見つけ指導する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供する。 (2) 生徒各自の課題や成長した部分についてこまめに情報交換をし、同一歩調で指導に当たれるようにする。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 検査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式	始業式		中間考査	文化祭 期末考査	終業式	始業式	期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定	春季大会	昇段審査	中体連総合大会 県中学生大会		全国中体連大会	中体連新人戦 秋季大会	昇段審査			初射会	市民体育祭	
練習試合・遠征等								合同練習会	練習試合			練習試合 合同練習会
シーズン区分)	<試合期> 1年:基礎練習 体力作り 2・3年:射技の向上	<充実期>	<試合期>	<充実期> 1・2年:射技の向上と体配の習得	<充実期>	<試合期>	<充実期> 1・2年:射技の向上と体配の習得	<準備期> 体力作り 巻簾練習(射技の振り返りと改善)	<準備期>	<準備期>	<準備期>	<準備期>
活動内容・ねらい	・射法八節の習得 ・基礎体力の向上 ・体配の習得 ・弓道に取り組む心構え						・大会を通して見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・より高い技術の習得を目指した練習(手の内と取懸けの取得、引き分けと離れの改善) ・基礎体力の向上				

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	喜多方市立会北中学校・野球部	顧問・外部指導者氏名	宇川純子・武藤正・平林新一	電話/FAX	0241-36-2038 / 0241-36-2162	Email	kaihoku-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 苦しいことやつらいことに耐えて、続ける勇気を持つ生徒を育てる。</p> <p>(2) マナーや礼儀が部活動・大会以外の日常生活に生かせる生徒を育てる。</p> <p>(3) 活動の中で自分なりに創意工夫し、力を伸ばせる生徒を育てる。</p> <p>(4) 自己及び部の目標に向かって積極的に取り組み、自己の役割については、責任を果たせる生徒を育てる。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部員全員が同じ目標を掲げ、日々の練習に取り組む。</p> <p>(2) 個人の目標に向け、自分の課題を明確にすることで、効率の良い練習を目指す。</p> <p>(3) 時と場に応じた言葉遣いや、部の中での自分の役割を自覚させる。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 試合で勝ちたいという強い思いをもつ部員が多いが、中には仕方ないから野球部に入部したという、意識の低い部員もいる。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 全生徒参加とし、1年間を通じて活動する。</p> <p>(2) 年間計画を作成し、複数顧問教師の指導、監督のもとに効率の良い練習をさせる。</p> <p>(3) チームの和を大切に、有意義で充実した活動を支援、指導する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 1年間を通じて活動する。</p> <p>(2) 効率の良い練習をさせる。</p> <p>(3) チームの和を大切に、有意義で充実した活動を支援、指導する。</p> <p>(4) 人数が9名に満たないため、北塩原一中との連携を図りながらチーム作りを進めていく。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 明るく向上心を持って、全力で練習や大会に取り組む。</p> <p>(2) キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習をしっかりと取り組む。</p> <p>(3) 守備などの連携プレーを練習するため、北塩原一中との合同練習を取り入れる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を話し合うことで、顧問と部員が思いを共有している。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会や学年保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 基礎的なことを大切に繰り返すことで、技能を身につけさせていく。</p> <p>(2) 一つ一つのプレーの内容について、考えながら練習するようにする。</p> <p>(3) 北塩原一中との合同チームとして大会に参加するので、お互いを認め合うチーム作りを力を入れる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、課題を克服するための練習方法などを事前に確認する。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動紹介		期末考査	終業式				期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定			地区大会				地区新人戦					
練習試合・遠征等		練習試合実施			夏休み期間中に練習試合を行う。	週末に隔週で練習試合を行う。						
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習	・守りの連携プレー ・バントやエンドランなどの攻撃パターンの練習	・大会に向けた試合形式の練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・キャッチボールやトスバッティングなどの基本的な練習	・守りの連携プレー ・バントやエンドランなどの攻撃パターンの練習	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習	・走ることを中心とした基礎体力の向上を目指す練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	北塩原村立第一中学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	顧問：渡邊清人 外部指導者：佐藤 稔	電話/FAX	0241-24-3321 / 0241-24-3322	Email	kitashiobara1-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図り、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 礼儀・挨拶のしっかりできるプレーヤーの育成をはかる。 (2) 基礎・基本を中心に、個に応じた技能を高めるトレーニングを行う。 (3) チームとしての技術・団結力の向上を図る			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果について考察・ミーティングを行い、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 全員が、一丸となって練習に励み、活動の意識を高める工夫をする。 (2) 個人の目標を設定し、技能の向上をはかる。 (3) 基礎・基本を中心に、各自のレベルに応じた練習を工夫する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式			中間考査 文化祭	期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	地区大会	県大会 協会主催大会	協会主催大会	地区新人大会 協会主催大会		県新人大会				
練習試合・遠征等	週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定					
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・基礎・基本を中心としたトレーニング	・練習試合をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎・基本を中心としたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・基礎・基本を中心としたトレーニング	・練習試合をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング ・次年度に向け部員相互の指導力を高めるトレーニング	・個人の目標を設定し、技能を高めるためのトレーニング ・次年度に向け部員相互の指導力を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	北塩原村立第一中学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：甲斐 史 外部指導者：内海英男、湯浅由美子	電話/FAX	0241-24-3321 / 0241-24-3322	Email	kitashiobara1-j@fcs.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図り、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 (3) 日本古来の文化と伝統を尊重する精神を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 個人技能を高め、上達したいと考えている部員がほとんどである。 (2) 部活前のランニングなどにも意欲的に取り組み、体力の向上や技能の向上に意欲的で真面目な生徒が多い。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 人間味豊で、心身共に健康な生徒の育成をはかる。 (2) 全身持久力を高め、基礎・基本を中心に、個に応じた技能を高める稽古やトレーニングを行う。 (3) チームとしての技術・団結力の向上を図る			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 稽古や試合を振り返り、感じた課題や成果について考察・ミーティングを行い、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 全員が、一丸となって練習に励み、活動の意識を高める工夫をする。 (2) 個人の目標を設定し、技能の向上をはかる。 (3) 基礎・基本を中心に、各自のレベルに応じた練習を工夫する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から伝統を重んじた所作をはじめ、心構えや稽古法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		期末考査	終業式			中間考査 文化祭	期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		連盟主催大会	地区大会	県大会		地区新人大会 連盟主催大会	連盟主催大会	県新人大会			連盟主催大会	
練習試合・遠征等	週休日等に錬成会 に参加	週休日等に錬成会 に参加	大会期間を除き 週末に稽古会を設 定		週末に稽古会を設 定	大会期間を除き 週末に稽古会を設 定	大会期間を除き 週末に稽古会を設 定	週休日等に錬成会 に参加	週休日等に錬成会 に参加		週休日等に錬成会 に参加	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	充実期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・基礎・基本を中心とした稽古。	・錬成会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・基礎・基本を中心とした稽古。	・大会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・大会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・基礎・基本を中心とした稽古。 ・ランニングによる体力作り。	・稽古会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・大会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・錬成会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・錬成会をととして見えてきた課題の解決に向けた稽古。 ・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。	・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。 ・次年度に向け部員相互の指導力を高める稽古。	・個人の目標を設定し、技能を高めるための稽古。 ・次年度に向け部員相互の指導力を高める稽古。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	坂下町立坂下中学校	顧問・外部指導者氏名	塚原直樹、田中 大、安藤信之	電話/FAX	0242-83-2356 0242-83-1008	Email	bangecy@town.aizubange.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、スポーツを通して自信をもって何事にも主体的に取り組む基盤を培う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、学年の枠を越えて、体力と技能の向上を目指し、競技を通じて精神と体力の望ましい成長を目指す。</p> <p>(2) 技能と体力の向上を目指すという同じ目標を持つ集団として、自主的・自発的かつ共同的な活動を行い、集団の一員としての自覚を深め、集団全体の充実・向上につとめようとする態度の伸長を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 地区上位の実力を持ち、県大会から東北大会へと目標を定め活動している。目標達成に向けての部員の意識は高く、自主的に練習に取り組んでいる。</p> <p>(2) 目標達成に向けて、部内でよく協力し合いながら取り組んでいる。実力に差がある部員もいるが、分け隔てなく練習できる状態である。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な、心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校、地域の指導者、保護者会の三者が連携を図りながら、部員個々がそれぞれの目標を達成できるように、生徒活動のバックアップを行う。</p> <p>(2) 特徴的にも、技能的にも様々な生徒が集まる部という集団が、共に支え合いながら技能習得に向けて努力する集団になるように、部活動の指導に取り組む。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) スケジュール調整を適切に行い、状況に応じて、平日でも練習を早く切り上げ、睡眠時間を確保させていく。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 生徒へ事故防止に向けての意識付けを十分行い、準備運動など十分行わせ、事故防止に向け取り組ませる。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的にふり返りや、具体的な事例研究を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 体力作り、基本技能練習、試合形式、練習試合と段階を踏みながら、経験者、初心者ともに技能の向上が図れるように指導内容を計画する。</p> <p>(2) 高い目標を掲げる生徒を中心に、より専門的で、高度な練習を取り入れ、生徒の目標達成に向けて取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> <p>(2) 日頃の会話も大切にし、その中から、悩みや要望をくみ取れるように積極的にラポート形成につとめる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(2) 年度初めや年度途中に顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 休日の練習では顧問と校外指導者が全般的な指導を行う。夜間の保護者会主催の練習会では、保護者が安全面への配慮を行い、コーチが技能面で指導にあたる。</p> <p>(2) 通常の学校の部活動では、(1)の練習内容を基本として行い練習内容の一貫性を確保する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式		
各種大会の予定	協会主催大会	協会主催大会	支部大会 地区大会	県大会 協会主催大会		協会主催大会 支部大会	地区新人大会	県新人大会 協会主催大会	東北新人大会			
練習試合・遠征等	練習試合	練習試合			合宿	合宿						
シーズン区分)	準備期(1年) 試合期(23年)	準備期(1年) 試合期(23年)	基礎練習(1年) 試合期(2・3年)	基礎練習(1・2年) 試合期(2・3年)	基礎練習期	試合期	試合期	基礎練習期	基礎練習期	充実期		
活動内容・ねらい	2・3年生は試合形式を取り入れ、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は体力向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は基本技能向上を目指す。	2・3年生は試合形式中心に行い、実力の向上を目指す。初心者は基本技能向上を目指す。	基礎的な技能の定着と即ちの向上を目指す。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	試合形式を取り入れ、試合を進められるようにする。	結果を反省し、基礎練習を行い、基本的な技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す	基礎技能の定着を目指す		

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	坂下町立坂下中学校 卓球部	顧問・外部指導者氏名	顧問 二瓶幹男、佐藤容子 外部:佐瀬 清晴	電話/FAX	0242-83-2356/0242-83-2008	Email	bangecv@twon.aizubange.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、人間教育の一環として、目標に向かって努力する生徒、他者と協働できる社会性をもつ生徒を育て、自信をもって何事にも主体的に取り組む基盤をスポーツを通じて培う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、学年の枠を越えて、体力と技能の向上を目指し、競技を通じて精神と体力の望ましい成長を目指す。</p> <p>(2) 技能と体力の向上を目指すという同じ目標を持つ集団として、自主的・自発的かつ共同的な活動を行い、集団の一員としての自覚を深め、集団全体の充実・向上につとめようとする態度の伸長を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 方部上位の実力はあるが、一人一人の能力に大きな差があり、上位大会を目指す生徒と楽しむことを目的としている部員が混在する。</p> <p>(2) 学校として全員部活動入部であるため、やりたくないのだが入部している生徒・ほとんど部活動に顔を出さない生徒も少数だが存在している。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員個々の性格、特徴を的確に把握しながら、集団の特性や個に応じた科学的な心身の発達に配慮したバランスの取れた練習を行う。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 学校、地域の指導者、保護者の三者が連携を図りながら、部員個々がそれぞれの目標を達成できるように、生徒活動のバックアップを行う。</p> <p>(2) 発達段階も、技能的も異なる様々な生徒が集まる部という集団が、共に支え合いながら技能習得に向けて努力する集団になるように、部活動の指導に取り組む。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 参加大会のスケジュールにもよるが、日曜日は基本的に休養日に充てている。</p> <p>(2) メリハリをつけた練習を行い、弛緩と集中を使い分けながら練習効果を上げる事により、疲労を最小限に抑えるよう心がけている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) 生徒へ事故防止に向けての意識付けを十分行い、準備運動など十分行わせ、事故防止に向け取り組ませる。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備し、服務倫理委員会でも定期的なふり返りや具体的な事例研究を行う。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 体力作り、基本技能練習、試合形式、練習試合と段階を踏みながら、経験者、初心者とともに技能の向上が図れるように指導内容を計画する。</p> <p>(2) 高い目標を掲げる生徒を中心に、より専門的で、高度な練習を取り入れ、生徒の目標達成に向けて取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> <p>(2) 日頃の会話も大切にし、その中から、悩みや要望をくみ取れるように積極的にレポート形成につとめる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> <p>(2) 年度初めや年度途中で顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 外部コーチが技術面の指導を受け持ち、学校顧問は生徒管理・安全管理を中心に受け持つ。</p> <p>(2) 通常の部活動で外部コーチが不在の時は、外部コーチが指導した内容の反復を行うが、レベル差が激しいため、初・中レベルの生徒は基本練習を中心に行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 打合せ時には、常に方針・方法について確認を徹底する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式 部活動結成	校内陸上大会	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	学校祭	定期テスト	終業式	始業式	定期テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定	・喜多方スプリングオープン卓球大会	・学年別卓球選手権大会 ・全会津小・中学生団体強化卓球大会	・両沼中体連大会 ・全会津中体連大会	・喜多方サマーオープン卓球大会 ・県中体連大会	・卓球選手権大会(カデットの部)	・白虎杯卓球大会 ・両沼中体連新人大会	・全会津中学校新人卓球大会 ・喜多方オータムオープン卓球大会 ・「いこしえ街道」マラソン大会	・県中学校新人卓球大会 ・両沼オープン卓球選手権大会	・喜多方ウィンターオープン卓球大会			・町民卓球大会
練習試合・遠征等	随時実施											→
シーズン区分	2、3年生主体の活動			→	1、2年生主体の活動							→
活動内容・ねらい	基本技術の向上を目指して反復練習を行う。	大会や練習試合を通して、技術の強化を図る。		→	基本技術と体力の向上を目指して練習を行う。	大会や練習試合を通して、技術の強化を図る。		→	次年度へ向けて、基本技術と体力の向上を目指して練習を行う。			→

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	只見町立只見中学校・特設陸上部	顧問・外部指導者氏名	顧問：齋藤 聡 外部指導者：渡部 一昭	電話/FAX	TEL 0241-84-2022 FAX 0241-84-2050	Email	tadacyuu@tadamed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>・特設陸上部の活動を通して、競技力・体力の向上を図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>・特設陸上部は、大会で勝ち抜き上部大会に勝ち進むことを目的としている部員と体力づくりを目的としている部員が混在している。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 特設陸上部の活動は、年間計画に基づき生徒の負担過重にならないよう計画する。</p> <p>(2) 外部指導者と顧問の事前打ち合わせやコミュニケーションを密にしながら、専門的な指導のもと、具体的な成果が見える指導としたい。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 特設陸上部は4月～10月までを活動期間とし、過剰な練習にならないように注意する。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体調・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 特設陸上部の活動においては、生徒の体力向上、陸上競技の競技力・技術向上を目的とした指導内容とする。</p> <p>(2) 活動内容としては、県大会または上部大会に参加でき、生徒が達成感を味わえるよう、外部指導者と連携した指導体制を整備する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的に個別相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>・特設部活動の顧問、副顧問を配置し、派遣指導者だけの指導とならないよう外部体制を確立して、計画的な取り組みとする。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供する。</p> <p>(2) 外部指導者からは、技術的な指導や練習内容及び練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 第1学期始業式 部活動紹介 特設陸上部編成		期末テスト	特設駅伝部編成 第1学期終業式	第2学期始業式		紅葉祭(文化祭)	期末テスト	第2学期終業式	第3学期始業式	学年末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定				県中体連陸上大会	東北中学校陸上大会 全国中学校陸上大会	全日本中学生大会 県ジュニア陸上大会 全日本新人陸上大会	県新人陸上大会					
練習試合・遠征 等					週末・冬季休業中 をメインに練習	大会期間を除き、 冬季休業中の練習		活動なし				
シーズン区分)	練習期	練習期 試合期	試合期	試合期	練習期	試合期						準備期間
活動内容・ねらい	ジョグを中心 に行い、体づく りを行う。	大会を見据えた種 目トレーニングを 行う。		ジョグを中心 に行い、体づく りを行う。指導者 には、技術的な指導 を行っていただ く。	大会を見据えた種 目トレーニングを 行う。指導者 には、技術的な指導 を行っていただ く。	大会を見据えたス ピード練習を中心 にトレーニングを 行う。指導者 には、技術的な指導 を中心に行って いただく。						

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき市立平第一中学校・新体操部	顧問・外部指導者氏名	顧問・山際奈々、加藤里奈 外部指導者・猪狩陸	電話/FAX	0246-23-1744 / 0246-21-4361	Email	Taira-jh@city.iwaki.hukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 新体操という競技を通して、新体操に必要な体力や柔軟性、技術の向上を図るとともに、集団行動や他者への思いやり、協調性、礼節などの人間性を育む。 (2) 一人ひとりが目標を持ち、その目標達成に向けて、自ら考え、活動する態度を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 新体操経験者と未経験者が混在しており、技能の差が大きく同じ練習をするのが難しい。 (2) 大会で勝ち進みたいと考えている部員と、運動に親しむことを目的としている部員の部活に対する意識の差も大きい。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 出場できる大会は年に4回と少ないので、年間を通して目的を持って活動できるよう、短期目標、長期目標と目標を持たせて、意欲的に部活動に取り組めるようにする。 (2) 部内での演技テストや発表会などを多く取り入れて、向上心を持って練習に取り組ませる。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 毎週月曜日を部活動休養日としている。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 3～9月のシーズン期間は、柔軟性を向上させるトレーニングと演技指導を中心に行う。10月～2月のシーズンオフの期間は、柔軟性の他、持久力や運動技能全般の向上、手具操作の向上を目指した指導を行う。 (2) 年間を通しては、豊かな人間性を育み、望ましい人間関係を築くため、積極的な生徒指導を行う。			3部員とのコミュニケーションの方策 (1) 毎日、練習や試合を振り返り、感じた課題や成果をノートに記述。そのノートを週に一度提出し、顧問が一人ひとりに助言や励ましを行っている。 (2) 顧問が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 年4回の大会出場に向けて、外部指導者より練習内容や練習方法についてのアドバイスを頂きながら、練習を進める。 (2) 外部指導者や保護者との連携を密にして、共通理解のもとで部員の活動を支援する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 検査等の予定	入学式・始業式	体育祭 中間検査	期末検査	終業式	始業式		中間検査 音楽会	期末検査	終業式	始業式	期末検査	卒業式・修了式
各種大会の予定		協会主催大会	中体連地区大会	中体連県大会		地区新人大会						協会主催大会
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・体力・柔軟力を向上させるトレーニング ・手具操作の技能向上を目指したトレーニング	・大会に向けて演技中心のトレーニング	・大会に向けて演技中心のトレーニング	・大会に向けて演技中心のトレーニング	・体力・柔軟力を向上させるトレーニング	・大会に向けて演技中心のトレーニング	・持久力・柔軟力を向上させるトレーニング ・手具操作の技能向上を目指したトレーニング	・持久力・柔軟力を向上させるトレーニング ・手具操作の技能向上を目指したトレーニング	・持久力・柔軟力を向上させるトレーニング ・手具操作の技能向上を目指したトレーニング	・演技作り	・演技作り	・大会に向けて演技中心のトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき市立藤間中学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	竹元 俊文 作山栄太郎 ・ 田仲 祐介	電話/FAX	0246(39)2155 / 0246(39)2156	Email	fujima-jh@city.iwaki.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通し、自主的・自立的な生活態度を身につけ、進んでルールを守る精神を養う。</p> <p>(2) 生徒一人一人の心身の鍛練と、よき社会人となるための資質・能力を養う。</p> <p>(3) 礼儀作法・責任感・愛校心などを育て、生徒一人一人の体力・技能の向上を図る。</p> <p>(4) 健全な趣味・豊かな教養を育て、生徒一人一人の持つ能力の発見・助長に努める。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) バレーボール部活動を通して、人間性を育成すること(あいさつや礼儀の習得、責任感、協調性の育成)を目指す。</p> <p>(2) バレーボールの技術習得や体力の向上を目指す。</p> <p>(3) バレーボールへの興味関心を高め、競技人口の増加を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 野球部との二者択一の選択肢で入部してくる生徒もおり、バレーボール競技に高い興味を持たない部員もいる。</p> <p>(2) 小学生からの経験者はさらに上の技術習得を目指しており、練習内容によっては取り組み姿勢に温度差が感じられる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 生徒全員がいずれかの部活動に入部し活動することを原則とする。ただし、特別な事情や身体的理由により入部できない生徒については、担任・保護者と相談の上配慮する。また、特設部で活動する生徒は、特設部以外の部に入部することとする。</p> <p>(2) 全職員でその指導にあたり、生徒の個性を理解しながら心身の向上を図る。</p> <p>(3) 活動は、顧問教師の計画と生徒の自発性を尊重し、効率的に実施できるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) バレーボール競技を通じて、集団の到達目標を設定し、各人がどのように集団に貢献していくかを考え行動させる。</p> <p>(2) 大会までの過程を大切に、部活動だけではなく日常生活でも精一杯努力しようとする姿勢を育てる。</p> <p>(3) 中学卒業後の活動を見越して、一人一人の成長に見合ったメニューを提示し、バレーボールの技術向上を促す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 毎週月曜日を部活動の無い日に設定している。週休日も過度の練習にならないように練習時間や取り組み内容を工夫している。大会翌日は必ず休みを入れている。</p> <p>(2) 病気や怪我、体調不良を訴える生徒に関しては、通院や自宅での休養を促し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに、活動の開始・終了時には必ず生徒の様子を観察・把握する。</p> <p>(2) 活動には必ず顧問が付き、常に生徒の様子を確認するとともに、準備運動などを十分に行わせるなど、生徒に事故防止に対する意識付けを十分に行う。</p> <p>(3) 指導状況を常に把握し、不適切な指導につながる行為が見られた場合は、管理職が個別に指導する。また、生徒や保護者から、体罰・いじめ・セクハラ等の相談ができる体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 集団づくり。</p> <p>(2) 体力向上、基本技術習得の促進。</p> <p>(3) 実戦練習を通じた競技の専門性の教授。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 日々の練習で気になることがあればチャンス相談をし、部員の悩み解決や、部活動集団の問題の排除に努めている。</p> <p>(2) 練習試合や大会を振り返るノートを定期的に提出させ、指導者が確認し、指導や支援の改善に生かしている。</p> <p>(3) 定期的及び大会終了後にミーティングを行い、今後の活動方針などについて、共通理解を深めている。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会や新入生説明会等において、校長から学校としての部活動の目的や指導方針等を説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度当初に部活動保護者会を開き、顧問が活動目標や方針を説明する機会を設定する。</p> <p>(3) 年度途中や年度末など、随時、顧問が活動状況や実績等について説明する</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 顧問が部活動全体運営をし、精神面での支援、アドバイスを行う。</p> <p>(2) 技術面指導を外部指導者にお願ひし、経験者の立場からのアドバイスをいただく。</p> <p>(3) 顧問と外部指導者で部活動運営や技術指導について意見を交換し、共通理解を図りながら生徒に接していく。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の訪問日に顧問との打ち合わせを行い、それぞれの部員の性格や学校生活の様子、配慮事項など情報提供を行う。</p> <p>(2) 外部指導者から、練習内容や練習方法、指導のポイントなどのアドバイスをいただく。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式、始業式 部活動紹介 新入生仮入部	体育祭 中間テスト	期末テスト	終業式	始業式	中間テスト	文化祭	期末テスト	終業式	始業式	学年末テスト	卒業式 修了式
各種大会の予定		他地区交流大会 協会主催大会	地区大会	県大会		協会主催大会	地区新人大会	県新人大会			協会主催大会	
練習試合・遠征等	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	月末に練習試合	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征	週末に練習試合 月1～2回遠征
シーズン区分	充実期(2・3年) 準備期(1年)	試合期(2・3年) 準備期(1年)	試合期(2・3年) 準備期(1年)	試合期(2・3年) 準備期(1年)	充実期(1・2年)	試合期(1・2年)	試合期(1・2年)	試合期(1・2年)	準備期(1・2年)	充実期(1・2年)	試合期(1・2年)	準備期(1・2年)
活動内容・ねらい	*新メンバー加入 のための新しい集 団作り。2・3年 生は大会に向けて のチーム作り。1 年生は基礎体力作 りと基本的技術の 習得。	*2・3年生は大会 に向けてのチーム 作り。大会や練習 試合の反省を基 にした戦術強化。 1年生は基礎体力 作りと基本的技術 の習得。	*2・3年生は大会 に向けてのチーム 作り。大会や練習 試合の反省を基 にした戦術強化。 1年生は基礎体力 作りと基本的技術 の習得。	*2・3年生は大会 に向けてのチーム 作り。各技術、 プレーの精度アッ プ。1年生は基礎 体力作りと基本的 技術の習得。	*1・2年生によ る新チーム集団作 り。基本的技術の 見直し。	*大会や練習試合 の反省を生かした 技術強化。	*大会や練習試合 の反省を生かした 技術強化。	*大会や練習試合 の反省を生かした 技術強化。	*練習試合の反省 を生かした技術強 化。基本的技術の 見直し。	*練習試合の反省 を生かした技術強 化。関係プレーの 向上。	*大会や練習試合 の反省を生かした 技術強化。	*練習試合の反省 を生かした技術強 化。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき市立植田中学校・サッカー部	顧問・外部指導者氏名	顧問：小林智志、渡部達哉 外部指導者：大井川恵一	電話/FAX	電話 0246(62)3521 / FAX 0246(62)3523	Email	ueda-jh@city.iwaki.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		サッカー部の活動目標 (1) サッカー部の活動を通して、健全な人間性の育成を図る。ピッチ上だけでなくピッチ外でよい習慣が定着するよう指導する。 (2) サッカーの楽しさや厳しさを教え、向上心を持ってサッカーに取り組めるよう指導する。「絶対に負けぬ」という戦う気持ちと弱音を吐かないたくましさを身につけさせる。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		サッカー部の指導方針 (1) 個人個人を伸ばすことに重点を置く。生徒の課題を把握し、自ら解決していく強い意志と実践力を身につけさせ、チームとしての成長に繋げる。 (2) 指導者間でコミュニケーションを十分深めながら、質の高いトレーニングを行う。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		サッカー部の指導内容 (1) 日本サッカー協会指導教本の内容 (2) ナショナルトレセンU-12, U-14で実施した内容 (3) チーフインストラクター研修で学んだ内容			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		サッカー部の指導方法 (1) 月1回以上の校内スタッフ委員会を実施して、トレーニングテーマと内容を十分話し合い、トレーニングを行う。 (2) M-T-M方式を取り入れ、試合の中で何をできるようにすれば楽しく良い試合ができるか、課題を取り出してトレーニングし、試合で確かめる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	体育祭 中間テスト	期末テスト	終業式	始業式	創立50周年記念式典	中間テスト 合唱コンクール	期末テスト	終業式	始業式	期末テスト	卒業式・修了式
各種大会の予定	いわき民報杯県リーグ	いわき民報杯県リーグ	市大会 県リーグ	県大会 県リーグ	県リーグ	ろうきん杯県大会 県リーグ	市新人大会	県新人大会		福島民友杯		県リーグ
練習試合・遠征等	1～2回遠征	合宿(2泊3日) 1～2回遠征	合宿(1泊2日) 1～2回遠征	1～2回遠征	合宿(3泊4日) いわきさかいドリ ームキャンプ	2～3回遠征	2～3回遠征	2～3回遠征	合宿(1泊2日) Jリーグ観戦	2～3回遠征	2～3回遠征	2～3回遠征
シーズン区分)	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	充実期
活動内容・ねらい	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・大会とととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・基礎基本のトレーニングの徹底	・ボール操作を高めるトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・ボール操作を高めるトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・ボール操作を高めるトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・ボール操作を高めるトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・ボール操作を高めるトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・リーグ戦を戦うための基本技術戦術を向上させるトレーニング